

第1回「木造住宅デザインコンクール」 家庭の部応募作品分析結果報告書

平成2年9月

(財) 日本住宅・木材技術センター

第1回「木造住宅デザインコンクール」 家庭の部応募作品分析結果報告書

平成2年9月

(財) 日本住宅・木材技術センター

まえがき

第1回木造住宅デザインコンクールは、課題「私のまちの木の住まい」で実施致しました。幸い、多くの方の応募を頂きました。木造住宅に寄せられた熱い提案を、審査委員の方々も高く評価をされていきました。一時期とはいえ、応募して頂いた人、手掛けたが応募しなかった・出来なかった人、及び応募しようと構想を練った人等々が、木造住宅について考えられたという事実を貴重なことだと考え、感謝しています。

このデザインコンクールは、家庭の部、設計、工事業者、及び工業高校生の区分で行いました。この中で、「家庭の部」に着目、技術の裏付けはないかもしれませんが自由な発想・住宅に向ける思い・それらにあるキーワード等々、応募作品の分析・整理を試みました。その成果が、この報告書です。この報告書は、(株)オブコード研究所（代表取締役 野辺公一）に委託して作成したもので、住宅の企画・設計に携わられる人々にとって、有益な資料となり得るものと考えます。

最後になりましたが、この木造住宅デザインコンクールは、次に掲げる企業の特別な御協賛を頂き実行したものであり、ここに感謝の意を表します。

株式会社木下工務店
殖産住宅相互株式会社
住友林業株式会社
太平住宅株式会社
日本電建株式会社

平成2年9月

(財)日本住宅・木材技術センター

目

次

まえがき／1

はじめに／5

1. 応募者の特性／6

2. 提案住宅の延べ床面積／6

3. 階高特性／8

(1) 1階／8

(2) 2階／8

4. 様式特性／9

5. 応募作品特性／13

(1) 玄関／14

(2) サニタリー／15

(3) キッチン／16

(4) 寝室／17

(5) リビング／18

(6) 和室／19

(7) 子供部屋／19

(8) 主婦室／19

(9) 屋根裏部屋／19

(10) 客間／20

(11) 開口部／20

6. 応募作品の提案分類／21

(1) いわゆる伝統的な木造住宅観のゆらぎ／22

(2) 日本的風土に適した住宅／24

(3) 光の空間へのこだわり／26

(4) コミュニケーションにこだわる／26

(5) 環境問題からのこだわり／28

(6) 工法提案／30

(7) 高齢者住宅／30

(8) 子供たちのこだわり／32

おわりに／33

資料・「家庭の部」地域別応募者別提案コメント一覧／34

はじめに

平成2年に実施された第1回「木造住宅デザインコンクール」は、以下のような応募区分によって、課題「私のまちの木と住まい」が作品募集され、総応募数は636件であった。

- I. 家庭の部 応募数 155件（構成比24.4%）
- II. 設計者の部 応募数 445件（構成比70.0%）
 （内高校生80件、構成比12.6%）
- III. 建築工事業者の部 応募数 36件（構成比 5.7%）

以上のように設計者による応募が全体の7割を占めたわけであるが、住まい手（家庭の部）からの応募も全体の1/4を占め、木造住宅についての住まい手の関心の高さを伺うことができる。これに対して、工務店などの建築工事業者からの応募は1割にも満たない状況となっている。これは、一つには木造住宅を担っている工務店の内こうした作品コンテストに対する応募は、登録区分で設計者として応募している、と見ることもできるが、やはり工務店が従来から言われている設計提案力などが弱体化している現れとみることができよう。

そうした状況においては、今回の住まい手の積極的な応募にみるように、住まい手の積極的なニーズ主張に対して如何に対応していくのか、ということがやはり木造住宅の供給する側の大きな課題であるともいえよう。

そこで、我が国で初めて公的な機関が行った木造住宅に関するデザインコンテストにおいて、住まい手の住宅ニーズの動向や木造住宅への期待などを応募作品を分析することによって、それらの課題に対応する手がかりを得ることを目的として「家庭の部」の応募作品155件について、図面及びコメントをもとに分析を行った。

本レポートはその分析結果である。

1. 応募者の特性

今回の家庭の部の応募者総数149名（企業等団体及び複数応募を除く）であり、男女別では、男性60名、女性89名となっている。やはり、男性よりも女性が住まいに対する意識が高い、といわれる状況を反映している結果となっている。

また、地域別に見ると首都圏で全体の43.6%を占めており、次いで近畿15.4%、東海12.1%の順であり、三大都市圏からの応募で全体の71.1%を占めている。このことを男女別にみると、男性では、首都圏が45.0%を占めており、三大都市圏合計では全体の63.3%となっている。

女性では、首都圏42.7%を占めており、三大都市圏合計では76.4%となっており、三大都市圏に住む女性からの提案が最も多い結果となっている。

2. 提案住宅の延べ床面積

今回のコンテスト課題は、「私のまちの木の住まい」ということであったが、家庭の部の九割の作品が、自分の計画する、もしくは建てたい、あるいは既に建てた作品であった。

もちろん、一部は供給業者的な視点から応募をしている作品もあったが、多くは「私」にとっての木造住宅、あるいは木造へのこだわり、というものをメッセージとして表現した作品と捉えることができる。

応募規定では、延べ床面積が120㎡以上220㎡以下という設計条件がつけられているが、応募作品中延べ床面積記載のある作品73サンプルの平均延べ床面積は、175.7㎡となっている。これを地域別にみると（北海道、東北、北陸、中・四国はサンプル数が少ないために除く）関東甲信越が219.0㎡と最も規模が大きい。次いで東海184.1㎡、近畿174.4㎡、首都圏168.8㎡、九州・沖縄145.1㎡の順となっている。この想定されている床面積の平均の地域的な差は、現実的な床面積の地域差にほぼ関連している。

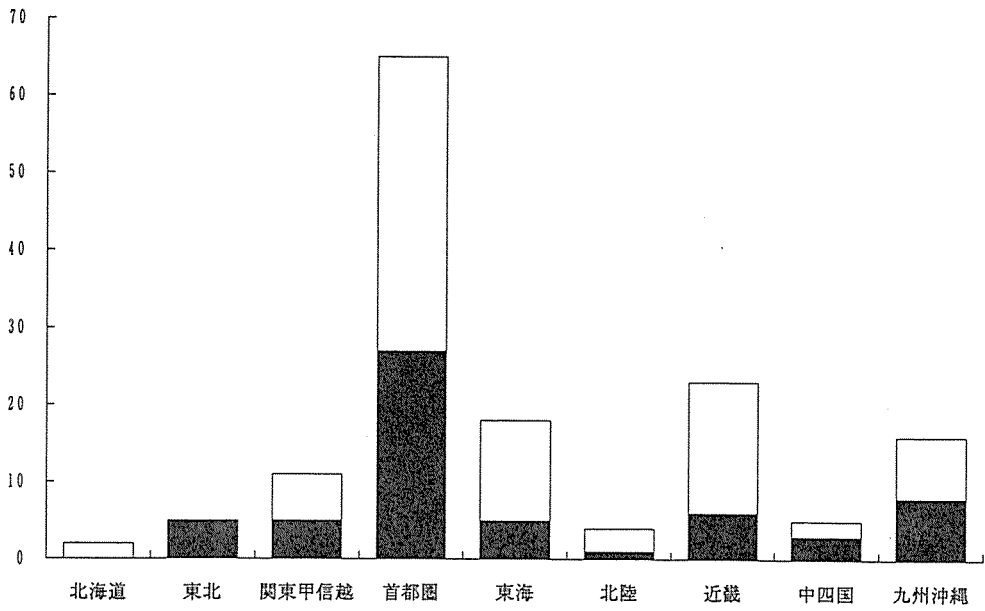


図1・第1回木造住宅デザインコンクール家庭の部男女別応募状況

また、この床面積は、どのような家族形態を想定するのかによっても大きく異なる。

この延べ床面積を男女別にみると、男性平均では178.6㎡、女性平均では173.5㎡となっている。

3. 階高特性

基本的には、二階建て住宅の想定が殆どであるが、三階建て（小屋裏利用も含む）を想定している作品が九作品、7.8%であり、男性4作品、女性5作品となっている。また、三階建て住宅提案での地域特性は存在していない。

次に階別の提案状況を試みる。

(1) 1階

1階の用途では、主寝室を持ってくるケースもあるが、やはりパブリックな場として捉えられているものが多い。サニタリー、キッチン、ダイニング、リビング、応接間といった通常の構成でありながらも、ダイニング、リビングを緩衝地帯としつつ、来客用と家族用のスペースを明確に分ける傾向が強く感じられる。そのため玄関から左右に振り分けるプランが多い。

特にリビングは複数の部屋を一間にできたり、あるいは一間を明確に区切れたりといった工夫がなされており、パーティースペースとしての機能はかなり優先的に考えられている。また、在宅勤務対応型の提案もあった。

興味深いのは、各部位では強く訴求されなかったエコロジーというキーワードが、フロアを通じた広い捉え方をした場合に初めて強まってくる。特に1階では通風に対して強いニーズが集まっている。具体的にどのような手法を取るか分からなくとも、とにかく明快な願望として健康指向は強まっているということである。

(2) 2階

1階のパブリック性の強まりに対応して、2階はパーソナルな用途室の集合として提案されているケースが多い。寝室、子供部屋が主だが、書斎、AVルームなど個々の趣味の部屋が多数取り上げられている。

2階への要求住性能としては、1階の通風に対して採光がメインテーマとなつて

いる。トップライトの採用だけではなく、どの部屋にも二面開口を、といった工夫のあとが各所に見られる。サンルームや植物栽培用の温室の付設など、光をいかに建築的手法で取り込むかが興味の対象となっている。光の象徴として取り上げられるのはベランダで、すべての部屋に独立したベランダを配するケースや、かなり大きな面積をベランダに割くものも多い。吹抜けに面して小部屋を用意し、趣味の部屋とするものが相当数あった。

そのように開放感を求めながら、用途はあくまでプライベート向きに考えられているため、視線のコントロール、防音対策に多くのものが触れられている。また、個室が多くなっているためライフステージの変化への対応が課題とされており、間仕切りの可動性は必須のこととなっている。将来の二世帯化を考慮して、あらかじめ外階段をつけるといったものも多かった。

応募作品における想定されている家族形態は基本的には、夫婦＋子供がおおいが、二世帯住宅提案も19作品、16.5%ある。これを男女別にみると、男性8作品（男性作品中16.3%）女性11作品（女性作品中16.6%）となっており、性差なく、二世帯住宅提案が行われていることがわかる。

4. 様式特性

木造住宅といっても、そのイメージされるモデルは決して一律ではないことが、今回の応募作品をみてもよく了解される。生活スタイルの指向性として住宅の様式を単純化してとらえると、和風、洋風、中風（折衷）と3つのタイプに分けて捉えることができるわけであるが、これを今回の作品に当てはめてみた。何を持って様式決定とするのかは、様々に議論があるところではあるが、ここでは、説明文や外観デザイン及びプランによって生活の指向性からそれらを類型化してみた。

応募作品全体での様式類型は（調査可能サンプル数119）、和風15.1%、中風33.6%、洋風51.3%となっており、洋風住宅提案が5割を超えている。

また、この類型はある意味で産業的な就業属性に深く関係している部分があり、その意味では我が国の産業別就業構造の現状（1985年現在で第一次産業8.8%＝和風、第二次産業34.8%＝中風、第三次産業56.9%＝洋風）とほぼ対応した類型構成となっていることがわかる。

やはり住宅のスタイルの指向性としては、一般的な住宅ニーズの動向が今回のコ

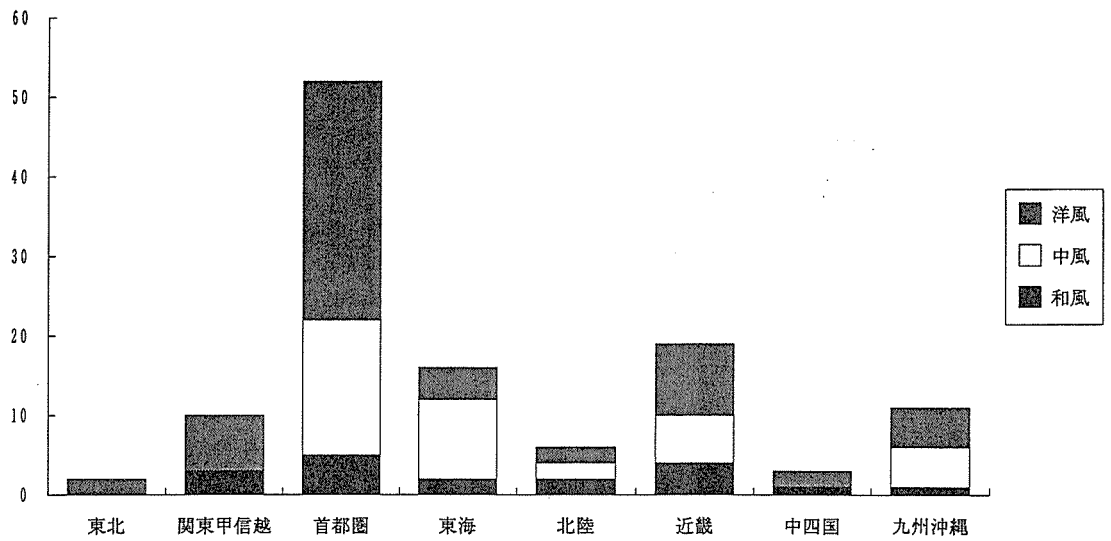


図2・地域別・作品の住宅様式類型（実数）

ンクール作品においても反映していると考えられるべきであり、その意味では、木造住宅＝和風生活スタイルといった、イメージは既に過去のものとなっている、ということができよう。

これを男女別計での構成比でみると、

和風・男性－20.8%

和風・女性－10.6%

中風・男性－26.4%

中風・女性－39.4%

洋風・男性－52.8%

洋風・女性－50.0%

となっており、和風指向は男性が女性の約二倍の構成比となっており、和風的な住宅は男性的な記号ニーズによって支えられているとも考えられる。

また、洋風は男女とも半分を占めており、住宅スタイル指向が洋風を中心として動いていることが理解できる。

このことを地域別にみてみよう。調査可能サンプルには、地域別偏差があるためにここでは三大都市圏の動向をみることにする。

和風・首都圏 9.6%、東海 12.5%、近畿 21.1%

中風・首都圏 32.7%、東海 62.5%、近畿 31.6%

洋風・首都圏 57.7%、東海 25.0%、近畿 47.4%

となっており、首都圏での提案作品の半分以上が洋風の指向性をしめているとともに和風的な指向性が10%にも満たない状況となっている。また、東海では一般的には和風的なスタイル指向が強い地域でもあるが、和風と洋風の指向に対して折り合いをつけるような折衷的なスタイルの指向性をみることができる。近畿では洋風指向が一番高い構成比を占めているが、和的なものに対するこだわりもその指向性からは残っているとみることができる。このように木造住宅には、地域的な特性からのスタイルの指向性といったものをみることができるわけであるが、全体としては、木造＝地域的な伝統性といった概念ではなく、自分たちの家族スタイルや産業

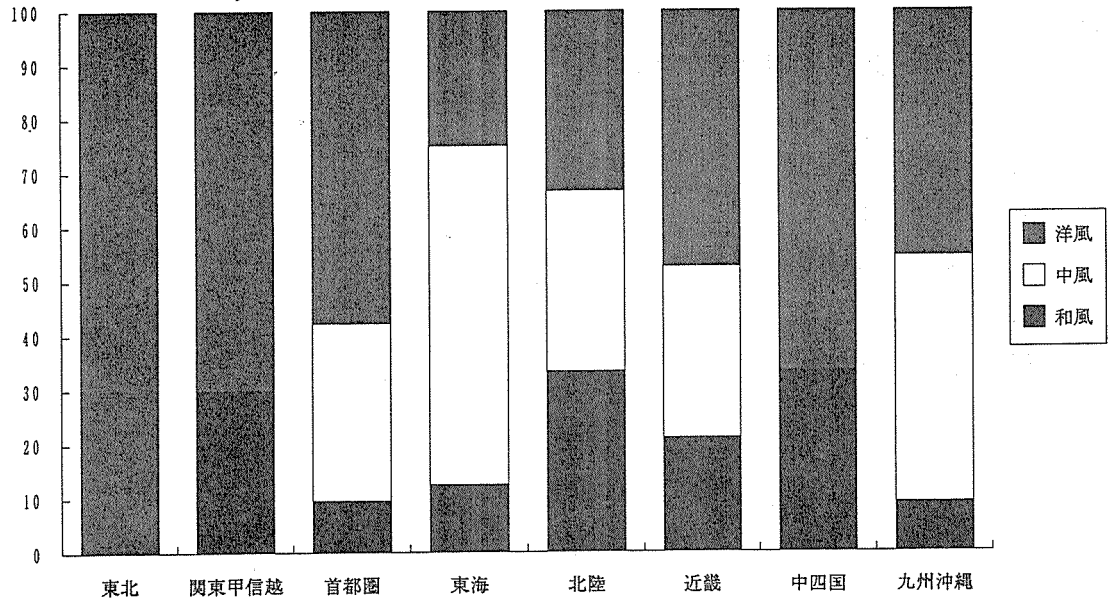


図3・地域別・作品の住宅様式類型（絶対値）

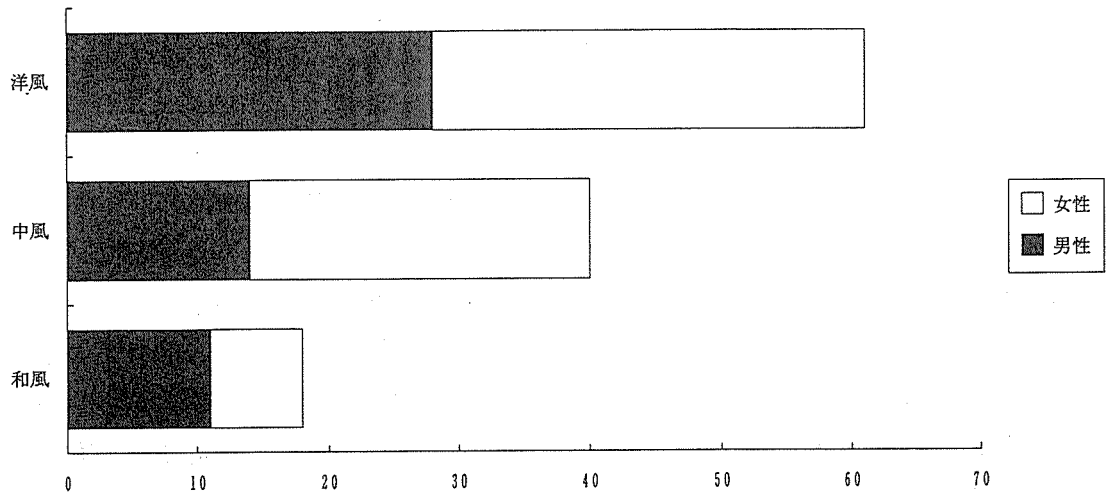


図4・男女別・作品の住宅様式類型（実数）

的な就業構造に対応しながら、新たな木造住宅指向が生まれている、と考えるべきであろう。

5. 応募作品特性

今回の応募作品では、作品説明において男女差が明快に出ている。男性は、テーマ主義的な説明であり、相当に概括的であるが、女性は、室空間単位にそれぞれ提案を盛り込んだものが多く、男性に比べてディテールにこだわっている。その点ではまさに女性の側からの住宅への要求の視点が現実的であり、かつ明快である、といったことも言える。

また、テーマにおいて最大のものは、「家族」であり、団らんやプライバシーといったものをどのような形で実現させていくのか、また、健康で明るく生活を営むための「器」として住宅はどのようにあるべきなのか、といった視点からの提案が多い。もちろん、提案者の年齢や家族のライフステージの状況によっても様々にその提案は異なるのであるが、基本的には、家族の生活の「器」としての住宅をどのような形で実現させるのか、という思考が基本として存在している。

その意味では、今回の応募作品者が木造住宅に対して抱いているイメージと其中で暮らす家族の生活のイメージの根底にあるものは三つの「や」をキーワードとしたものであるともいえる。つまり、

「やさしさ」

「やわらかさ」

「やすらぎ」

といった、「女性」性を感じる記号性を有する提案が多い。

つまり、家族の共有感というものをどのような形で演出していくのか、ということに多くの応募者がこだわっているということである。

入賞した作品をみても家族が無理なく、さりげなくコミュニケーションを行うための方法とは、といった問題意識を持った作品が多い。つまり、家族の集いと分散というものを無理なく行い得る住まいとは、ということであり、これほどまでに家族のコミュニケーションにこだわる、あるいはくつろぎにこだわる、という状況は少なくともここ十年程の傾向であり、ある意味では家族そのものが大きく変容を強いられている状況を今回の提案から読み取ることもできる。

そして、もう一つ大きな特徴は、エコロジカルな面も含んだ「健康性」（肉体、精神、建物）に対する強いこだわりである。（かならずしも和風スタイル指向というだけでなく、真壁や障子の見直し、といった提案もある。）こうした健康性を包括してくれる住宅として、木造住宅が応募者においては強く意識されていることも見逃せ否ない動向であり、いわば自然と同調しながら暮らすといった考えが深く志向されており、そうした面からの「省エネルギー」もまた、キーワードの一つであり、ソーラーシステムを利用した床暖房などの提案もみることができる。

また、自然との同調という意識からか、庭空間に関するこだわりが高いのも特長の一つである。それも庭自身へのこだわりだけでなく、室内側から自然との一体化をはかることができる庭空間といった視点も多い。その意味ではアウトドアリビングとしての庭空間の要求も高いことがわかる。

その意味では、あらゆる意味での「健康」というキーワードをもとに住まい手は今後木造住宅の有りようを注視していると考えられる。

以上のような作品特性をみることができるわけであるが、作品には実に様々な要求（提案）がなされている。それらの特性について部位別にみていくことにする。

（1）玄関

キーワードとしては、やはり「明るく、広く」が圧倒的である。コメントでは、南入りが想定されているものが多くなっている。また、プラン上やむなく北入りとなった場合は、特に採光面に関するコメントが付加されている。

広さについては現実的な面が強く出ており、狭さを前提としていかに広くみせるか、というところにポイントが集中している。そのためのツールとして吹抜けの採用が多数あり、玄関＝ホール＝吹抜けといった図式がすでに一般的なイメージとなっている。

ただ、他の居室とのバランスを考えた上でも広く取りたいというものもあり、家の顔といった位置づけは今もなお強いようだ。そのため、「明るく、広く」といったキーワードは来客を意識してのものが多く、接客空間が隣接されているもの多さからもそのことが分かる。坪庭を一緒に配置するものも多く、表現としては<力強さ><優しさ><風格><本物>といった言葉がみられる。他の部位と比較すると「男性」性が強く出ている部位といえるだろう。

家の顔といった性格づけからの発想として<純和風>といったスタイルにも根強

い人気があり、表面素材としても木材採用の要望は圧倒的である。金色の金物とのコーディネートがあげられているのは、商業施設のトレンドからの影響と読むことができよう。そうした「ハレ」に対する「ケ」の要素である下駄箱やクロゼットは、極力隠したいという意識が強い。反面それらには多くの機能を求め、容量について言及されているものも多い。

機能面ではセキュリティに関心があるようだが、ものものしい防犯設備類の採用ではなく、視線を中に入れないといった自然な対応が目立つ。ガラスを刷りガラスと指定するものも複数あり、近隣視線対応が玄関にとって重要なポイントとして設定されている。

また、温熱環境のコントロールについても関心が強く、外部との緩衝地帯ではなく完全に居室内として捉えられている。いずれも玄関内の要素に意識が集中しており、戸の外側からアプローチにいたる外部空間にはあまり触れられていない。この辺りを総括すれば、やはり内閉化の傾向が強いと考えられ、ある種の堅牢さが玄関への最大の希求ポイントだといえよう。

(2) サニタリー

サニタリーでは浴室に興味が集集中しており、住居内でもっともくつろげる部位として関心が高まっている。リビングなどと比較しても浴室の充実を望む声が多く、面積もかなり広く取られている。

キーワードとして〈温泉〉〈露天風呂〉などが数多くあげられており、その実現のための方法として庭とアクセスさせるプランが多くなっている。ただ鑑賞するだけの庭ではなく、外で涼んだり星を眺めたりといった具体的な行為が上げられており、リゾート的な要素を住宅に持ち込むことが〈夢の住宅〉へのアプローチだという考え方が想像以上に強いようだ。同様にフィットネスのためのスペースとして捉えられているケースもあり、大きな鏡の採用などが目立った。

興味深いのは、「浴室の充実」のために先端設備機器の採用が圧倒的に支持されていることである。これはトイレにもいえることだが、温熱環境管理、湯温・湯量管理などを設備機器に依存する考え方が大多数であった。他の居室ではむしろ省エネルギーやパッシブ的な志向が強いだけに、用途の特殊性が浮き彫りとなったかたちである。

トイレについては配置部位、数ともに千差万別であり、複数世帯対応といった要

因以上にサニタリーゾーンとしてバス・シャワー＋トイレが寝室の近くにパーソナルユースとして設置する、といった提案を含んで多様性に富んでいる。また、地域特性による男女別便器の設置といった提案もあった。ただし、トイレ空間そのものについては、老人対応のための温熱環境づくり、把手などによる安全性確保などに尽きている。「明るく、広く」というキーワードは前提となっているが、他の部位ほど開口などに工夫がなく、提案の対象としての強い意識は現れていない部位ということができる。

サニタリーについての大きな提案傾向は、設備機器の積極的な採用、さらにいえば都市化住宅的な指向性をもっとも受け入れられ、かつ進行している部位であるということである。浴槽、便器ともに洋式のスタイルを良しとするケースが多数派であり、その意味ではこの部位での<健康><くつろぎ>のイメージが、密接に現在の洋風リゾートイメージに結びついているともいえる。

(3) キッチン

かつて住宅の洋風化、住宅の「女性」性化の先端を担い続けたキッチンでは、予想したほど多くの提案がなされていない。「明るく、広く」といったニーズも当然のこととして受け止められているのか、強い提案がなかった。システムキッチンの伸長と併せて、一通りの願望が一般化し、新しい動向への変換期に入ったということであろう。どんなキッチンがほしいか、ではなく、どう使うか、が今後のキッチン部位ニーズのポイントであると予想できる。

目立ったのは、収納に対するかなり念の入ったディテールの提案である。日常の家事から発生するそれらは、現在のキッチンへの不満から発生しており、個別な工夫が凝らされている。これらには市場のシステムキッチンのラインアップでは対応できそうにないニーズが多くあり、自分で作り上げていきたいといった欲求さえ読み取れる。<家事効率>という言葉も多く見受けられ、設備機器に対する要求性能もかなり具体的で、高度でかつよく吟味されたニーズが多いといえるだろう。

どう使うか、にシフトしたキッチンニーズの対象は、誰が使うか、といったところに集中している。家事労働を主婦だけのものとせず、夫や子供、また二世帯同居の場合は親世帯も交えて食事作りをしたいといった願望も強いようだ。中には誰にでも使えるようなシンプルなキッチントップを良しとするものもあった。主婦層を中心としたニーズではあるが、家族の団らんからキッチンを独立させたくない、ま

た、家事に生きがいを見つけ出したいといったコメントには説得力がある。

そのため、キッチン内の提案よりも、むしろリビング、ダイニングとどうアクセスさせるかが大きな懸案となっており、カウンターキッチンといった安易なものだけではなく、視線の高さや間仕切り材の指定もなされている。これらには来客のもてなしもまた考慮されており、視線のコントロールにも十分注意がはらわれている。

これらのことから、キッチン設備機器の高機能化からキッチンユニット全体の機能（あるいは指向性）へとニーズがシフトしており、特殊な部位であったキッチンが、リビングやダイニングなどの居室と融合し始めているといることがよく分かる。

(4) 寝室

寝室では、やはり「明るく、広く」が共通したニーズとしてあり、特に採光については朝の光を多く取り入れられることが必須の条件となっている。

ただ、一概に開口面積を大きく取るといったものではなく、スリット状の開口など、演動的で、かつ効果的な採光が望まれている。プライバシーの確保が何よりも大切な部位として認識されており、細かい視線対応の工夫が説明されている。中にはベランダに面した一番いい場所に配置したいというコメントもあり、住宅の核として大切に扱われていることがよく分かる。

また、1階に主寝室を配するプランもあり、日常の家事のための利便性や有事の際の行動に対応したものと考えられる。同様に、隣接させる部屋の用途にはかなり意図的な選択がなされており、興味深い。もっとも多いのはやはり子供部屋と隣接したプランであり、アクセスの手法もプライバシーと連続性を調整して微妙なかたちで関係づけている。

逆に、寝室を夫婦が一番くつろげる部位として提案しているものも多く、夫婦だけの時間を楽しめるようさまざまな設備が付加されている。トイレ、クロゼットの付加を大多数がとりあげているのをはじめ、多目的スペースとしてタタミルームを付加させたもの、テラス、書斎を付加したもの、坪庭やホームバーを付加したものなどがあつた。

住宅の夢を語る時、なんらかの付加価値をつけていくことが必要となってくるのだが、寝室単体としての付加価値づけはいかにも難しく、プラスアルファの小部屋をつけることによって魅力づけることが考えられているということである。「落ち着きたい」といった明瞭なニーズのみが存在するこの部位では、過度なデザイン

ニーズや設備ニーズは育ちにくいようだ。

(5) リビング

「明るく、広く」といった基礎的な願望は、この部位では少し複雑な側面を見せ始めている。採光については、「落ち着きがなくなるので開口の面積・位置を熟考した」とするものが比較的多く、常に住宅内で一番条件のいい位置に配されてきたこの部位ならではのコメントが目立った。

大開口に替わってニーズが高まっているのは、トップライト、ハイサイドライト、出窓といった特殊開口であり、居住性から演出性へと興味の対象がシフトしていることが分かる。そのため吹抜けの採用が非常に多く、また大黒柱や梁を剥き出しのままにし、雰囲気づくりに役立てたいという声が多かった。木造住宅のインテリアとしてまずイメージされているのは、このような演出面においてだといえる。

また、出窓下に収納をつくるなど、家具の類を極力ビルトイン方式にしたいというものが多く、ほとんど何も置かずに使いたいという共通項が見てとれる。インテリアへのアクセントづけは掘こたつをはじめとした段差づけによってなされており、この辺りは来客対応が十分に意識されている。

温熱環境コントロールが当然となり設備類に強いニーズはみられず、それに変わってインテリア指向が強く表出してくているといえる。そのために他の居室とどのようにアクセスさせるかが、最大の懸案となっている。つまり、住宅における全体的な空間把握が住まい手の中に誕生してくているとみることができるだろう。

中には吹抜けなどを利用してすべての居室と隣接するようにプランニングされているものもあり、住まいの核としての扱いは大多数のものに見られた。特に目立ったのは屋外のテラスとの連続性に固執する提案で、設計コンセプトとして圧倒的であった「エコロジー＝健康」といった図式がもっとも強く表れている。

その他にもゲームルームや多目的スペース、家事室などとの連続性が取り上げられており、間仕切りに工夫が凝らされている。また、広いスペースを如何に可変性の高い空間にしうるか、という点にもニーズがあるといえる。

この可変性には二通りの要素があり、一つはパーティー・冠婚葬祭対応などの用途によるもの、いま一つはライフステージの変化による間取り変化対応である。住まいの中心であると同時に家族をとりまく多くの事象の受け皿として考えられているようである。

(6) 和室

洋風住宅と呼べるものが約50%を占めているにも関わらず、ほとんどの提案で和室が採用されている。採用の動機としては、「家族の団らんのためには和室が必要」とするものがかなり多い。

ただし、和室そのものに強いニーズは感じられず、単に畳を要望しているという印象を受ける。言葉としてよく目立った<多目的ルーム>でも畳を採用しているケースが多く、コメントでも「和室ばく」というものがよく見受けられた。

位置づけも単独で配されるケースは少数で、リビングのプラスアルファのスペースとして扱われている。また、冠婚葬祭用に続き間として設定されているものもいくつかあるが、それらは客間や二世帯の場合の親夫婦の居間として兼用するかたちを取っている。

そのためデザインも従来の様式を踏襲せず、欄間などの省略、障子のサイズの多様化が目立った。ただし、広縁の採用は圧倒的であり、これはエコロジーというキーワードから発生しているものと考えられよう。中には「一室しかないからこそ本格的に」というものもあったが、和室は今後タタミルームとしての性格を強めていくことが予想できる。

(7) 子供部屋

全体を通じてライフステージの変化への対応が懸案となっているが、子供部屋においては特に著しい。多くは2人の子供を想定しているが、完全に仕切ってしまうプランはほとんどなく、将来は客間や趣味の部屋に、といったものが多数あった。

反面、その内容に何らかの特化機能をもたせるものはなく、二世帯への改築に都合の良いように、といった提案に終始している。

(8) 主婦室

主婦の家事負担率の変化からか、予想よりも提案が見られなかった。多目的スペースとされる空間がキッチンと隣接するケースが多く、これを主婦室兼用とする提案にとって替わってきているとも考えられる。

(9) 屋根裏部屋

採用件数の多さに比較して、細かな取り組みがなされているものはほとんどなか

った。趣味の部屋、収納室としての用途がほとんどで、狭小敷地化による空間有効活用として、デッドスペースをつくりたくない、といった思いだけが先行している感がある。ただ、省エネルギーを意識して換気機能を積極的に盛り込むものもあり、その効用は認識されつつあるようだ。

(10) 客間

応接間といった扱われ方はあまりなく、多目的ルームと兼用されているケースが多い。そのため多用途対応に向いていると考えられている和室が多いのが特徴だ。ホームパーティー用のスペース確保に比べれば、まだまだ位置づけが明確になっていないが、提案件数には目をみはるものがある。

(11) 開口部

エコロジーというキーワードから、開口に対する関心の強まりが際だっていた。天井高までの大開口を好むものも確かに多いが、プライバシー保守の面からか、小窓、スリット状のものが目立つなど、いくぶん複雑なニーズ動向が見受けられた。

採光への要望は絶対的なものだが、トップライト、ハイサイドライトの採用が示すように視線コントロールが優先的な要素となっており、特殊窓への関心が相当強い。各部屋とも2面開口とするものも多く、採光を思いのままにコントロールしたいという、ニーズの高度化が感じられた。

また、通風に関しては採光以上に関心をもたれており、住宅の健康性を実現する上でもっとも効果的なポイントだと認識されている。そのためF I X開口はほとんど採用されておらず、コーナーをガラスで処理した場合も必ず通風用の小窓が付加されている。

開閉方式では引き違い方式の人气が高かったのが興味深い。デッドスペースをつくらないうえに有効であるとするものが多く、全面開放ができるようにすべて引き込みたいといったニーズも強かった。

雨戸の採用がほとんどなく、セキュリティ面は設備に代替させるという提案が多いのも目立った。ペアガラス、二重サッシなどはそれほど認知されていないが、開口部の高機能化には相当な潜在ニーズがあることが分かる。

6. 応募作品の提案分類

男性と女性との提案差については先に触れたが、ここでは、そのこだわりの差についてみていくことにする。

まず、男性の作品で頻度の高いキーワードは、「光」である。これは、健康の象徴としてとらえることもできるが、家族の「明るさ」の象徴として捉えることもできる。

トップライトや壁面全体が採光のための開口部といった提案が15作品（30.6%）ある。木造住宅は健康住宅である、とする考えが全体としての認識でもあり、そうした認識の一つの「具体」として採光が取り上げられている。

女性の作品で頻度の高いキーワードは、男性ほど直接的にうたっていないが、家族間コミュニケーション、仲間とのパーティー空間（冠婚葬祭も可能な）といった「ふれあい」そしてそれを支える「自然」（健康性）に関するものが多い。つまり、自然とうまくつきあっている住宅が木造住宅の最良な点といった認識であり、それらは家族の自然なつながりといったものが無意識に表出されているようにも思われる、とともに世界レベルでのエコロジカルな視点を住まいに焦点を合わせて行くと、木造住宅に至る、といった動向を捉えることができる。

また、男性作品にはみられない、夫婦だけになった時の住まい、といったことに対しても女性側から提案がなされている。いずれにしても女性作品の提案は、それぞれの室空間にたいする等分なディテールを追求していることが大きな特徴である。

また、空間に対するこだわりも、もはやシステムキッチンが常識化しているのか、今回はキッチンに対するこだわりよりも、通風や採光などを考慮した開口部にたいするこだわりや家族間コミュニケーションを考慮したりビングに対するこだわりが強い。また、「健康」指向を現すバス空間へのこだわりと各室の閉じ方と開き方に対する関心が強い、のも特長といえよう。プラン的には、吹抜けを盛り込んだ提案が非常に多くまた、それと同等にトップライトを盛り込んだプランが多い。また南面全面開口といった提案もあり、多くの提案者が開放感溢れる住宅空間を希求していることがわかる。

いずれにしても、部分的こだわりから、住空間全体を把握した上での各室配分、といった視点を有していることがわかり、その意味では住まい手の住宅に対する視線は、随分と高くなりつつあることがわかる。

ただし、こうした視線がどのようにして形成されてきたのか、ということを見ると、住宅雑誌や大手住宅メーカーのパンフレットそして住宅展示場などの情報供給が、彼女（または彼）たちの発想に大きく影響を与えているようにも作品をみていると思われる。事実、メーカーカタログのような記載方法の作品が散見された。ただし、そうした情報に対しては、「住宅展示場とは違って、実生活では細々としたものが必要になる。見た目だけを優先した住宅メーカーの器ではなく、使い勝手のよい、かつ不細工に見えない、中身のある住宅を考える」といったコメントも見られた。

次に作品に附されているコメントから、木造住宅に対するイメージと希求されているものを代表的なコメントからみていくことにしよう。

(1) いわゆる伝統的な木造住宅観のゆらぎ

①戦後欧米風に各部屋を壁で仕切った間取りばかりの家が流行しておりますがくつろげぬ様な気がするので思い切って開放的に設計しました。子供にはのびのび育ててほしいと言ふ願望もあります。（東京都、男性、旋盤工）

②我国の住まいの歴史を考えた時、高温多湿の気候にいかにも木構造が適しているか過去の建築物をみれば一目瞭然である。明治以降の洋風建築（大壁式）の導入は木を壁の中に包み込み、木の持つ美しさ、柔らかさ、香り迄もその中に閉じ込めてしまっているのではないだろうか。そこで、外観は下地窓を造り真壁式にして木を壁から「解放」し、本来の美しさを取り戻したい。（大阪府、男性、公務員）

などがその代表的なコメントである。こうした和風指向は男性が住居にこだわる場合の特性の一つであるが、次ぎのようなコメントもあり、興味深い。

③今はだんだんと私達の町でも都会的（洋式的）になりつつある。外観からは、木の家という感じもなく、中側でもかべ紙などでかざっている。そのために見たかんじはよいがなにか寒いようなかんじがする。しかし、時代の流れもあって、和室をのこしつつオープンの居間もいいというのがほんねでもあります。（青森県、男性、農業）

④木造住宅と言えは少なからず数寄屋門で迎えられる門まわりや瓦葺の屋根、そしてこれでもかといわんばかりの日本庭園等が思い浮かぶ。そうした日本の古典的な味は大事だが、実際には新しい世代にはそれだけでは暮らしにくい。そういうものを下地にし、敬遠されずかつ現代の暮らしと共存できるラインを引き出す設計を

試みた。(大阪府、女性、会社員)

というように木造住宅といっても随分と変化してきているのだ、という認識と、そうした中でそのよさを抽出する作業が必要な時代になってきている、といった意見として読むことができる。その良さとは何か、という点に関して風土に適した住まい、という視点が提出されている。

(2) 日本的風土に適した住宅

①木の住まいと聞いて真っ先に思い浮かべるのは縁側ではないだろうか。単なる懐かしさだけでなく、何か根元的な渴望に似た気持ちが働くように思われる。時代が流れ、人間の体格や好みが変わっても、日本の気候風土の特徴それ自体にはさしたる変化がないわけだから、住まいを考える場合には間数や外観だけに眩惑されることなく、伝統様式の持つ意味をよく吟味尊重して、設計せねばならない。「居は氣を移す」とも言うほどに住まいが健康に及ぼす影響は大きいが、一旦住んだ家を簡単に立て直すなど現代では望めぬからである。(兵庫県、女性、主婦)

②風土にあった木造の住まい。湿気、強い風雨、日の光等を防ぎ、かつ四季の変化を楽しめること。そのためしっかりした床下、ゆとりの縁側、たっぷりした屋根をもつこと。最近では風土にあわない、デザインのみの家が多い。(神奈川県、女性、40才)

以上のような提案は、開口のシステム(障子などによる全面開口の確保)から、通風の獲得といった視点からも現在の木造住宅に対する反省点といった感じからの提案が多い。

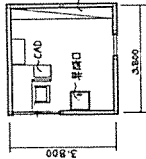
つまり、かつての木造住宅の特質であった、内部と外部空間の明確ならざるゆるやかなつながり(庭空間を含め)に対する希求をここにみることができる。

そして、木造が敷地の狭小化や隣家近接といった状況の中で現実的には不可能化している部分もあり、その分内部空間での対応をはかる、といった提案も出てくるわけである。そうした点からも光や風に対するこだわりが、強く提案の中に出ているように思われる。

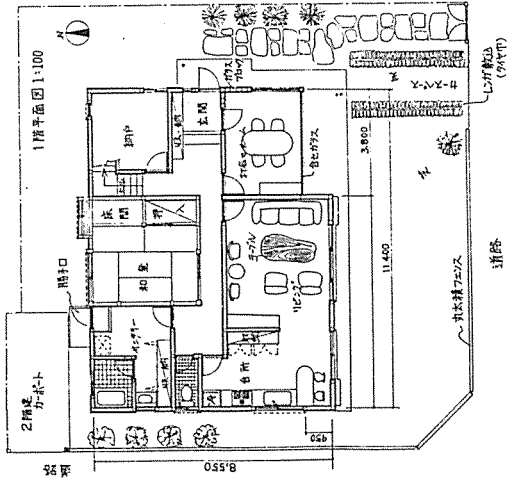
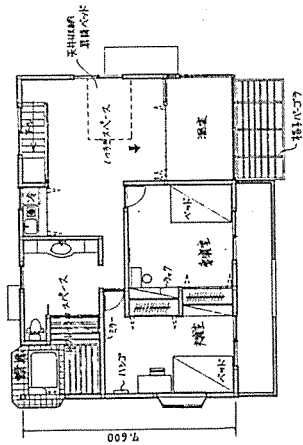
その背景には、やはり「明るい」住まい、という現在の住宅の主要なニーズが発露されている、とみることができるだろう。

私のまちの木のすまい

7307 平面図 1:100



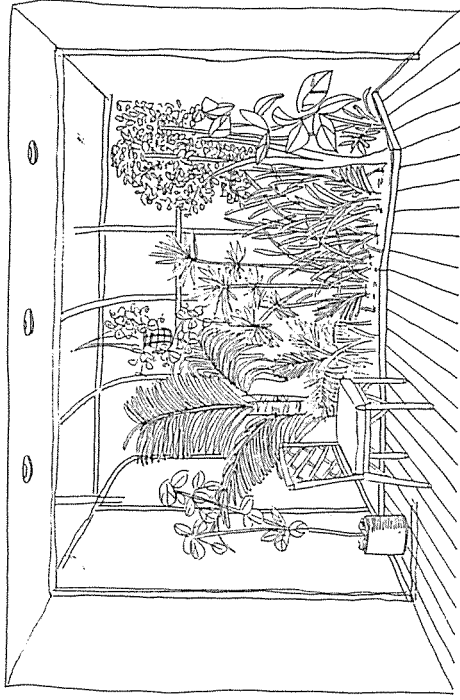
2階平面図 1:100



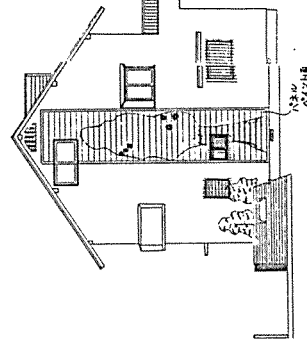
建築設計者の友(306)とアラコとアラコ-テイネ-グーの妻(324)の三人暮らしの「楽しい」です。「楽しい」の「明るさ」は「くつろぎ」を基本とした延面積180.5㎡の木造2階建てで、1階は床を畳を置き、2階は木造の天井を高くし、2階は夫婦二人のアライバートメントとして甲斐のある空間を創り出した。

1階の玄関は木の柱の間の74cmの間に、行合のスペースで、中央のリビングは休日にはお集まりの友人のためにゆたかに空間を確保していき、大きな木のテーブルは飾りつけを兼ねて迎える我が家のシンボル的な存在です。

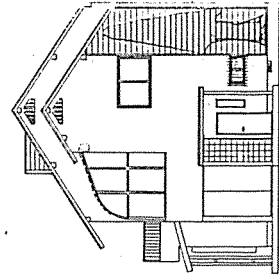
2階は不在に仕事を済ませる二人にはお気に入りの書庫、お気に入りの部屋から74cmの作業スペースに、東向のリビングには水耕栽培の温室がありお楽しみです。また、天井部分には収納可能な天井収納が設置されています。外観は南面に開口、ガラスを多用し「明るい」を追求しました。



2階室内より温室 (大系)



西立面図 1:100



東立面図 1:100

参考図2・「明るさ」を基調とした作品タイプ

(3) 光の空間へのこだわり

①採光を最重点とし、南面を三角にして壁面積を広くする。サンルーム、吹抜けを設け、ゆとりある空間を目指す。(神奈川県、男性、会社員)

②私の提案の一番のポイントは、家の中心、人の中心となる場所を吹抜けにすることです。屋根の構成材である、はり、むな木を天井という一枚の板で隠してしまうのは、とても悲しいことです。木の持つ力強さ、自然の曲線を生かしてやりたいと思います。そこに人が集まってこそ、家が成り立つのではないのでしょうか。そして二階ベランダからの光を充分にあびて、とても心地よいものとなるでしょう。

(千葉県、女性、主婦)

③広々と使い、ゆとりある家にしました。工夫したことは八畳の洋間とダイニングと和室を一つにつなげるようにしてたくさんの人を招いてパーティをできるようにしました。光がよく入るように大きな窓にしました。(岐阜県、女性、高校生)

④天気の良い日は、光を沢山浴びたい。雨の日だって、可能な限り外の明るさを確かめたい。夜は満天の星の中で暮らしたい。(東京都、女性、会社員)

⑤現在ニューファミリーが、やがては子供も自立し、いずれ夫婦だけになった時も友人と心ゆくまで楽しんで気がねのないだらかさ、暖かい家にしたい。屋根まで吹抜けとし、大黒柱が立ち、梁が見える様にし、天井(屋根)部分はサンルーフを通し、日差しが梁に伝わり、木のぬくもりを暖かく感じられる雰囲気、居心地のよい空間にしたい。(東京都、女性、主婦)

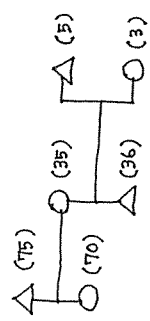
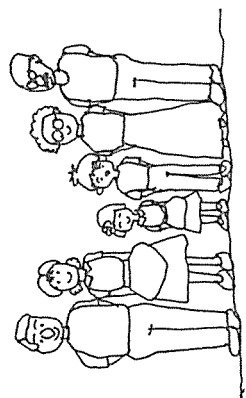
住まいの居心地のよさは、生活の器としての住居とそこに暮らす家族の有りようを含めた形で実現される、とすればそこには、集いと分散に対する配慮が必要となる、ということでコミュニケーションに対する空間的演出提案がなされている。

(4) コミュニケーションにこだわる

①現在の住宅は、外観プランをはじめもろもろにおいて洋風化され、それでよしとする安易な傾向がある。高級化志向と重なり、見てくればかりを気にする現代にあってやたら高級、洋風ではあるけれど実際住んでみると、使い勝手の悪さが目立つといった事が決して少なくないと思われる。元来日本人は農耕民族であり、それゆえ大家族が形成されてきた。核家族が主流になりつつある現在においても家族構成員間のコミュニケーションは、大切にされ、たとえ各自部屋があっても、知らず

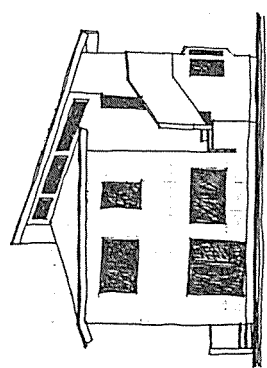
親といっしょに暮らす

2世代の 場合

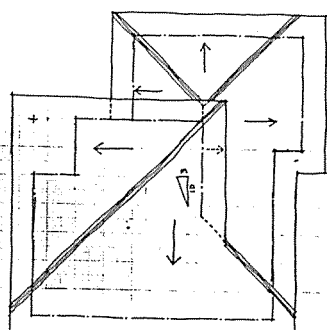


敷地面積 149.50 M²
 1階床 75.00 M²
 2階床 75.50 M²
 延床 150.50 M²

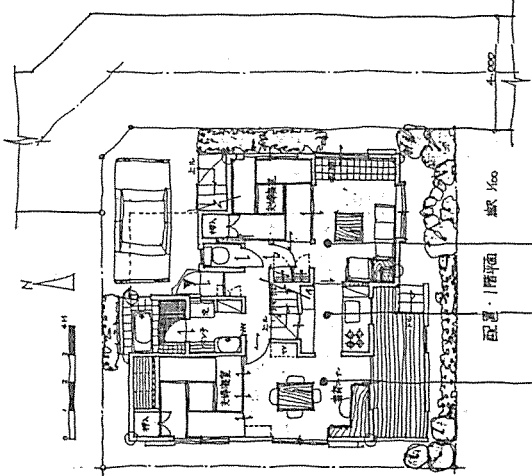
木造2階建2世帯住宅



東側立面図



屋根構造



配置・1階平面

敷 1/500

4.000

親世帯のプライベートルーム
 朝食のみここで朝夫婦二人で食事
 夕飯のみスペースは、ベッドスタイルで常時眠ることが出来る

通り抜けのキッチン
 両方の家族の気配が感じられる

二世帯の食堂として、朝食のみここで二世帯四人で食事
 の主人の書斎として
 の主婦の読書室として

子供室は必要最小限のスペースに
 しておく。
 必要行為は瘦る
 勉強が
 着替える

開口部：通風と見通しがよく

共有の居間

通り抜けのキッチン

来客時に居間と食堂を行き来できる
 又、食後は食後、食後は居間へ回ると
 サ、ヒズを寝ることが出来る。

共有の食堂；夕飯、風食は二世帯合
 わせてここに作る

快適に暮らすために

夏は涼しく 風通し良く
 冬は暖かく 日当り良く
 ともに明るく 使い勝手良く、

プライベートは尊重するが個室に長くこもること
 ないおに、家族全体の気配を感じる住みよさを考えた。

2階玄関ホールのせり上げ屋根の高さは開放
 すれば、1階より階段を吹き飛ばす風通しは良いです。

知らずのうちに家族が一つの部屋に集まり、一つのテーブルを囲んでいることの方が多いのではないだろうか？そうした家族の触れ合いを大切にするといった日本人の国民性をふまえながら、プランしてみました。（千葉県、女性、会社員）

②家族全員が自然に集まってくるリビングのある家が設計のポイントです。友人が集まって遊べる場があり、また、家族の誰かが知合いを連れてきても他の家族がリビングから追いだされない家族の団らんと客間としての要素が同時に成り立つスペースに余裕のあるリビングのある家としました。昔からある大黒柱の代わりにリビングの中心に木のらせん階段を作り広いリビングに木の香りと安心感を与えています。（神奈川県、女性、主婦）

③プライバシーは尊重するが、個室に長くこもることのないように、家族全員の気配を感じる住まいに。（神奈川県、女性、主婦）

④家族全員が自然に集まってくるリビングのある家が設計のポイント。友人が集まって遊べる場があり、それでいて家族の団らんと客間としての要素が同時に成り立つスペースに。（神奈川県、女性、主婦）

また、子育てを終えた夫婦の住まいとしての集いと個としての生活の有り様を考えた提案もあった。

⑤子供たちの巣立った夫婦のため、お互いに自分の生き方を大切に、狭い面積を広々と使えるよう計画した。（千葉県、女性、主婦）

以上のようなこだわりとは別に、エコロジカルな部分からの木造住宅へのこだわり、といったコメントが提出されているのが、現代という時代を象徴しているように思われる。

（5）環境問題からのこだわり

①今回の作品のテーマは「木と現代の建築技術との調和」です。なぜ木材だけの家にしなかったかという点と今日本の木材の多くが東南アジアなどの国からの輸入にたよっている点です。今の様に森林を伐採していると住宅デザインコンクールなどやってられません。その様なことから木の持つ「温かさ、丸み、力量」を現代の技術との調和から造りだしました。（兵庫県、男性、高校2年生）

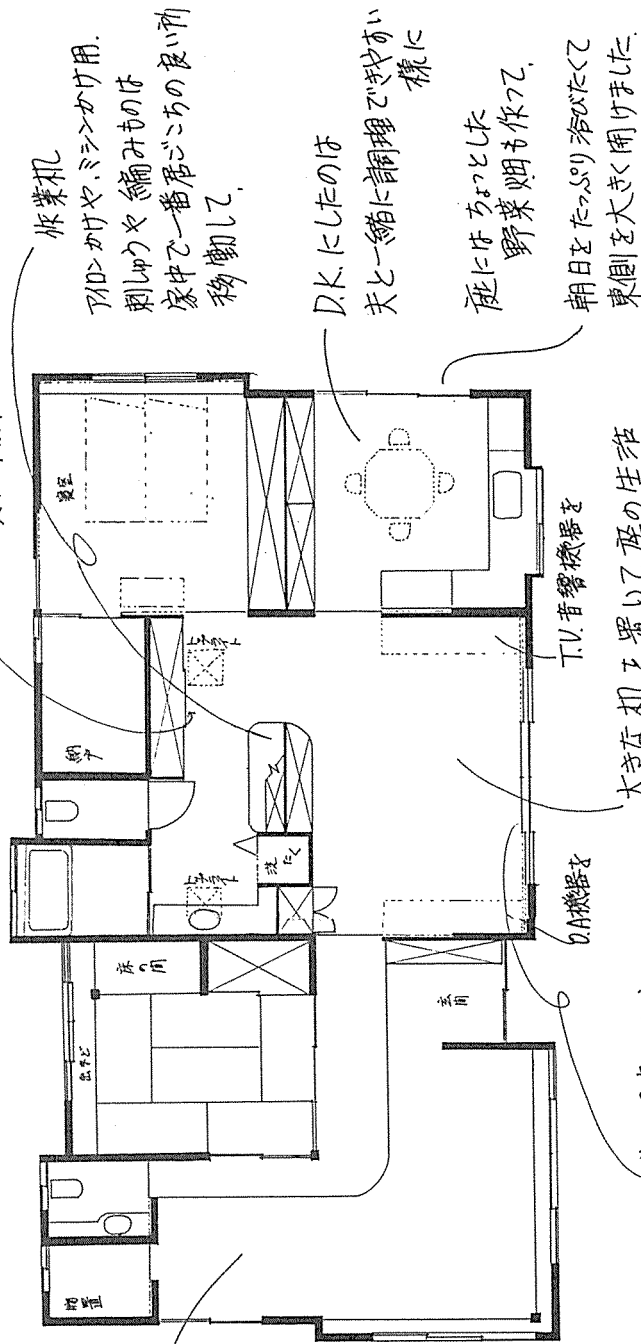
②自然環境を大切に、地球の事なども考えながら生活したい。（神奈川県、女性、主婦）

子供達の巣立った夫婦2人のために

お互いに自分の生き方を大切に
狭い面積を広く使いたく言いました。

縮尺 1/50 約 12.5㎡

大きな鏡面の扉
絶えず映って体形の維持を。
美容体操、ダンスの練習も。



作業机

アイロンかけや、ミシンかけ用。
刺しゅうや縮みものは
家中で一番居ごころの良い所
移動して。

DKにしたのは

夫と一縮に調理できやすい
様に

庭にはちよとした
野菜畑も作って、

朝日をたっぷり浴びたくて
東側を大きく開けました。

TV音響機器を

大きな机を置いて座の生活
床暖房はお風呂の中まで欲しい。
引き戸を多くして通路を広くと。
夏は引き戸を開け放して涼やかに

エアコンを

光の調節は紙障子で
引き込み戸に
庭の景色も楽しむ。

広い土間

植物を育てて
夫の日曜大工の場、
又気軽に社交場として。
基仲間も

民家風の内外装
大きな切燗屋根に
白い壁、黒い柱
板の間に座の生活
日常生活は主婦1人が管理しやすい20坪程で

③木を豊かに使って作られた家は、人間が自分自身のホメオステータスを保つのに発汗の調節や体表面積の調節等を無意識のうちにやるように、木が水分を吸ったり吐いたり、木の持つ保温性、断熱性のおかげで外気温の変化を室内温に直接伝えないようにしたりして住居の快適さを自然に保っていると思う。また、どんな立派な住建築物も劣悪な環境のもとにあっては良い住居になり得ないと思うが、木材の需要と供給のバランスがとれるレベルで森林作りが行われるとしたら、それは大局的住環境作りに一役をなすと考えられる。こういうことから私は木造住宅が大好きである。(福岡県、女性、主婦)

「家庭の部」作品という特性から当然のことながらソフトな部分での提案が多いわけであるが、工法に関する提案もあった。これは、増改築などを射程にいった木造住宅のあり方という部分からの提案ともいえよう。

(6) 工法提案

①木として小寸の柱材と定尺のベニヤ板を用い、低コストで同質の素材を確保する。壁ユニットのパネルで壁面を構成することを基本とし、それに柱と梁を構成する柱ユニットを組み合わせて、剛性を確保する。(東京都、男性、自営業)

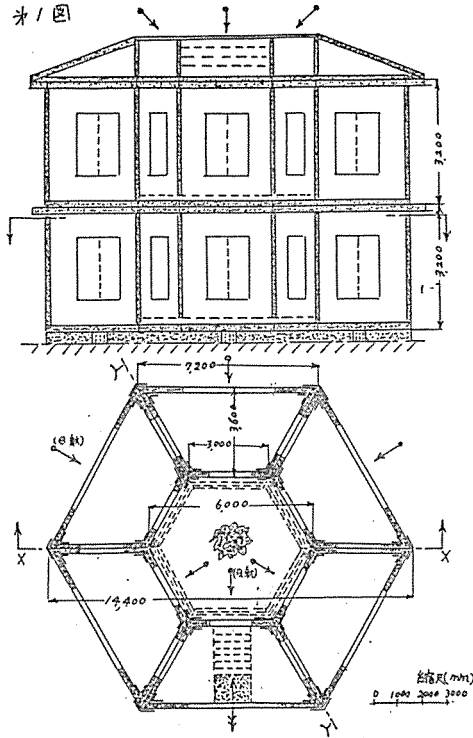
②木造の耐用年数を100年ぐらいと考え通し貫とし4寸、5寸柱を使用。今は、窓下までコンクリートを打つ方法が多い中で、あえて全体を木造軸組工法とし、隣と接触しない「独立型」の形でおさめた。今の構造だと改築のさい腐った所を直すのに他の部分(壁、柱など)も壊さなければならない。この方法だと浴槽の老朽やデザイン的に取り替えるにも施工しやすい。(神奈川県、男性、デザイナー)

二一世紀における高齢化社会の出現は、住宅においても大きな対応課題の一つでもある。以下のコメントは、そうした課題に対する提案ともいえる。

(7) 高齢者住宅

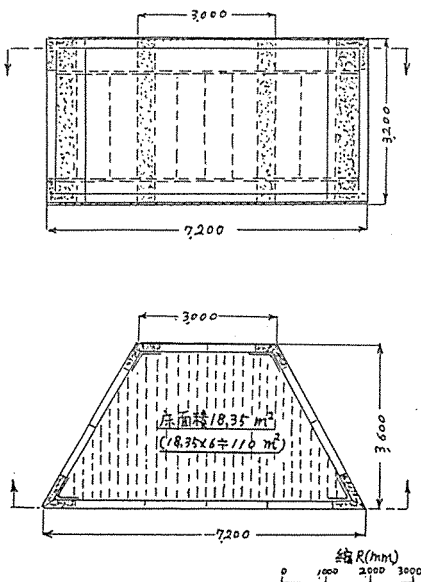
①住む人間は、80才になる母と50才の娘の私。母は、腰が曲がり、膝も悪く階段の上がり下がりが苦手。娘の私は、アレルギー体質とやはり若干膝に疾患あり。したがって、老人向きの家造りの理想を目指したい。新潟県は、雪国の仲間と考えら

※1図

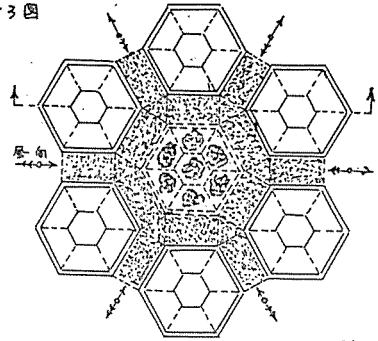


※2図

ユニット



※3図



【序】「私のまちの木の家」

I 構造の概要

- ① この木造住宅は、2回りような、台形(ノ組の村垣が形作る)平面形をもつユニットを、1回りに示すように、各階層毎に6個づつ配置して、家屋外形と中央空間が「六角形を形成する」に構成され、「六角中央空間をもつ六角プレハブ住宅」となる。
- ② この六角プレハブ住宅は、住宅として必要な機能(居室、台所、食室、浴室、洗面化粧室、寝室、応接室、個室、車庫など)を、この六角形ユニットに区分して整備し、各六角形ユニット室の構成と、内部設備の両工程を、すべて工場生産(プレハブ生産)で行い終了するに注意、完成された木造六角プレハブ住宅となる。
- ③ この六角プレハブ住宅の中央空間の上部を南側面開放して天窗とすることにより、埋戻土による温度調整と採光を確保し、各階層の6個のユニット室の環境(アモイヤ、日射、通風、保温など)を四季を通じて調整し得るよう構成している。

II この六角プレハブ住宅の効果

- ① この六角プレハブ住宅において、床面積 110m²(2階建の場合、延べ床面積 220m²)の住宅を計画すると、各ユニットの大きさは、※2図のように、長さ 7200mm x 幅 3600mm x 高さ 3200mm となり、エレベーター輸送が可能となるので、各ユニット室の外部構造、内部設備ともに、工場生産(プレハブ化)できる。これにより、従来の木造家屋の最大ネックとなっていた、現場木土工事の多くを省略できるため、大幅な木匠技術者の減員ができ、その経済的效果は大きい。
- ② 各階層に配置されたユニット室から、南向きの視界と日射が得られ、しかも、中央空間により、通風、保温が効果的となる。また、各ユニット室のアモイヤを天井段に向上させることができる。
- ③ このように構成された、六角プレハブ住宅を、※3図に示すように、ハニカム(蜂の巣、Honey Comb)状に配置することにより、直接家屋内において、視界、日射、通風などを取り入れることができなくなる。この住宅の特性を十分に発揮させることができる。
- ④ このように特性をもつ六角プレハブ住宅は、リゾート地にリゾートハウスとして建設することから、最も効果的である。

参考図 5・工法提案作品タイプ

れているが、ここ新潟市は夏は高温多湿、冬は季節風が強く、雪は地吹雪、路面は凍結。海岸からの汐風に家屋の傷みは早い。したがって、素材は全て木。金属類は極力使わない。窓は大きく。光と風を友に出来るようにして生きたいから。

屋内はもちろん敷地内に段差は極力出来ないように。全体に床暖房。居間、寝室、キッチン、トイレ、浴室、脱衣所、玄関。戸の類はすべて引戸で軽く。屋内はすべて障子を表と裏から貼り合わせるあんどんのようなものでどうかと思う。雨戸は採用しない。閉める手間を省きたい。ただし防犯の点からハイテク技術を駆使したい。
(新潟県、女性、会社員)

以上、応募作品から、特長的な動向をみてきたわけであるが、今回高校生を中心とした「子供」たちからの応募もあった。それらを見ると、住宅に対して非常に真剣な思考を行っている。とりわけ、社会的なストレスの巨大さ、といったものに対して、また家族の分散的な変容に対して、彼らは木造住宅提案を通して、切実にその対応を考えているようにも思われる。

(8) 子供たちのこだわり

①ぼくがこの家を提案したわけは、いろいろな場所からながめられる家があればいいなと思って描きました。この家の一番の特ちょうは、浴室から庭が見えることと、思い切り居間を広くしたこと、2階の子供室につながっていること、の3つだと思います。(埼玉県、男子、小学校5年生)

②現代では情報化の異常進行により、ストレスによる中年層の過労死や、高齢化、核家族の進行、又は家の資金運用等、様々な問題が出て来た。そこで、これらの要素をできるだけ抑制しようと考えたのがこの家である。

ストレスによる中年層の過労死は、仕事へ没頭しすぎたために起こるものである。これの防止法は、自然に多く触れ、リラックスした気分にするのである。そこで、この家は、清澄な水と木にできるだけ近付けるようにしてある。それは、家族のコミュニケーションルームを風呂場にしたことだ。安全ガラスで覆われたサンルーフは、開閉式なので、露天風呂にもなる。浴槽は檜作りで、落ち着いた雰囲気だ。

(東京都、男子、高校3年生)

③二世帯同居住宅といってもいろいろある。企画住宅メーカーのプレハブや鉄筋コンクリート造などなど、それなりに使い易そうだ。しかし、最大の弱点ともいえ

るのが、日本の国土にそれほどマッチしていない点である。若夫婦だけの家ならともかく、老人達には「しっけ」などの生活には、ちょっと耐えがたいものがあるだろう。だからこそ、私は、二世帯同居住宅には木造と思うのである。木造住宅なら企画住宅などと違い、ちょっとこった間取りもできる。この点も見逃せない木造住宅の魅力だろう。日本の国土に一番マッチした、木の香りの木造住宅を私は、自然の与えてくれた、一番のぜいたくだと思っている。(大阪府、男子、高校3年生)

④一階に特に部屋を作らなかったのは、いろいろな形で家族がくつろげる場所があればいいと考えた事と、親しい人を呼んでの気軽なパーティやお茶会が開けると思って。(埼玉県、女性、大学3年生)

⑤広々と使い、ゆとりのある家に。工夫したことは、八畳の洋間とダイニングと和室をひとつにつなげるようにして沢山の人を招いてパーティができるようにした。(岐阜県、女性、高校生)

おわりに

以上、今回の「家庭の部」応募作品の応募動向を分析してきたのであるが、住まいに対して実に様々な、そして個別な「思い」が語られており、その住宅に対するこだわりの現状と水準が理解することができる。

ただ、今回が第一回ということもあって、そのトレンドをみることはできなかったが、これは回を重ねることによって、貴重なデータとなっていくと思う。また、今後できうれば、応募者の住まいの現状というような簡単なレポートか図面を添付してもらおうと、住宅に対する現状と提案の比較検討などができて、より住宅の現状と未来への希求といったたどりが明快になってくるのではないだろうか。

今回は分析対象外としたが、設計者や建築工事業者の応募作品との共通性と差異部分の比較検討なども分析対象としては必要とされるテーマでもある。いずれにしても、持続的なコンクール実施によって、これらの分析を持続することによって、木造住宅に対するニーズ状況や供給者とのトレンドギャップなどを理解することができるといえよう。

資料・「家庭の部」地域別応募者別提案コメント一覧

第1回木造住宅デザインコンクール応募者(男性)

No.	氏名	住所	職業	備考
50	川辺久二	石川県金沢市	団体職員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地231 m² (70坪) ・建物212.02m² (64.25坪) 3F建て+屋根裏活用 ・木造軸組3階建瓦葺 ・家族構成6人(二世帯同居) ●木造住宅の優れた点の再確認 ①人間の成長発達に最適 ②耐久性抜群で気候風土に適合 ③日本の情緒を創出する ④高品位で住宅維持管理上のメリットが多い(木造建築材) ●3階建て認可を生かそう ●屋根裏空間活用が容易、快適 ●設計上の留意点 ①文化的生活②健康管理③整理整頓④雪おろし不要の家づくり [木造軸組構法2階建八角形] ・床面積 202.72m² 1F 102.9 2F 99.82 ・外壁→ジョリパット吹付 屋根→フッ素樹脂加工鋼板葺 中央部寄棟 ①八角形→四角形より強度がある、外壁面積が経済的、太陽光を多く吸収、室内照明電力量の節約②雪おろし不要の屋根施工 ③二世帯同居用に居住区分階層分離④客間は広く、上質材の使用で格調高い施工⑤ベランダを広くした ・敷地面積 242.55m² ・床面積 178.20 1F 89.10 2F 89.10 車庫 29.70 ・木造軸組二階建て ・屋根→瓦葺き(一部透明瓦) 外壁→ジョリパット吹付 門→数寄屋門、導入路は自然石石畳
606	高橋伸之	茨城県水戸市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・総床面積約220 m² ・家族構成5人(祖父、両親、子供2) ・都市郊外の高台に位置する ●設計テーマ ①木材と自然光の積極的活用→人間の自然回帰願望 ②直線と曲線の調和→伝統建築と現代建築の融合 ③多目的スペースの活用→従来の建築概念からの脱皮

607	川島晴夫	埼玉県浦和市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積340 m² ・総床面積206 m²(2階建て) ●家の内と外とが一体化したゾーン(表玄関、庭園、茶室、風呂、勝手口) ●食のさまざまな楽しみを彩る食空間(ダイニングルーム、キッチンカウンター、和室、茶室リビングルーム、バーベキューテラス)
610	阪田 誠	東京都北区	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・在来軸組工法2階建て ・延床面積129.525 m²(1階のみ内外壁レンガ積み) ●太陽光採取の家
93	豊口直行	神奈川県横浜市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積127.489 m²(2階建て) ●採光を最重点とし、南面を三角にして壁面積を広くする。 ●サンルーム、吹抜けを設け、ゆとりある間取りを目指す
55	浅沼信比古	神奈川県川崎市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・総床面積218.8 m²(2階建て) ・家族構成→両親(60代) + 子供(30代) + 孫(7~8歳) = 3世帯 ●内部階段をゆったりとさせ、安全、採光・通風に全面的に考慮
67	遠藤 卓	愛知県稲沢市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積441 m² ・延床面積191.3 m²(2階建て) ・家族構成6人(両親・夫婦・子供2) ●太陽光の採取 ●プライバシーの保持
6	北畑伊佐雄	大阪府大阪市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ①・建築面積 271.61 (m²) <ul style="list-style-type: none"> 1F 152.37 2F 119.24 ・床面積 180.52 <ul style="list-style-type: none"> 1F 105.99 2F 74.52 ②・建築面積 218.61 <ul style="list-style-type: none"> 1F 121.37 2F 96.88 ・床面積 139.94 <ul style="list-style-type: none"> 1F 57.96 2F 81.98 ③・建築面積 187.72 <ul style="list-style-type: none"> 1F 108.23 2F 79.49 ・床面積 179.28 <ul style="list-style-type: none"> 1F 101.44 2F 77.84
549	伊東重昭	大阪府泉佐野市	公務員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 195.00 (m²)

				<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 152.78 1F 70.38 2F 82.39 ・建ペイ率 0.46 ●高温多湿の気候に木構造は最適であるが、洋風(大壁)の導入により木が覆われてしまった。木を壁の中から解放するために、下地窓を造り真壁式にする ●21世紀への課題 <ul style="list-style-type: none"> ・狭い敷地の有効利用→高床式 ・緑の採取→温室、吹抜、中庭 ・高齢化社会への対応→多目的室(サンルーム)
618	神内 明	香川県高松市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 100坪 ・延床面積 120≦220 m² ・大都市郊外 ・家族構成5人(祖母、両親、子供2—大学、高校) ・現代和風木造住宅 ●音楽とスポーツ好きな両親と祖母、子供達を考慮(防音を最重点)
615	佐藤台六	大分県日田市	公務員	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 375.00 m² ・建築面積 96.35 1F床面積 92.19 2F床面積 67.22 ●OWAC(オワック)住宅 木の愛好者クラブからの提案 ・県産材(・木材、竹材、石材瓦・・)の有効活用 ・高齢化社会への対応 ・主要構造材に大断面杉材の使用、伝統的継手仕口を継承する重ね梁の採用、大黒柱の復活により「うるおい・ぬくもり・木の香り」を求めた。
552	江藤貞文	福岡県東区	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦+子供2人 ●二階建てとし、一階は平常の間取り、二階のバルコニーを広めにとり、夫婦寝室、子供部屋より出入口が設けられ憩いの場として使用、また相互間の通路にもなる。
31	相原泰祐	東京都墨田区	旋盤工	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 472 m² ・延床面積 151 m² ・家族構成 4~6人 ●1階には子供、トイレの近くにはお年寄りと配慮し、くつろげる空間として開放的に設計。また、南側霜除けに簾が掛けられるようにしている。

561	佐藤 茂	福島県会津若松	36歳	・ 2階建て (吹抜け)
592	土井晴海	埼玉県狭山市	?	・ 延床面積 188 m ² 1F 120.4 2F 67.6 ・ 家族構成 夫婦+子供2人 ・ 2階建て (吹抜け、防音室) ●街自体が大きな公園で、そのなかで開かれた家々が木陰の道でつながれている。
593	新井達彦	埼玉県川越市	?	・ 建築面積 178.51m ² ・ 家族構成 夫婦+子供3人 ・ 先祖から伝承した広い土地に池、樹木を中心に配置 (平家) ●空調に頼らず十分な通風で、自然を感じとれる家。正月・盆などの集いも可能。客間を45度振って真南に向ける。ギャラリーをメインに。廊下を有効利用 (ライブラリー、ギャラリー) 水廻りを集合させ、蓄熱式床暖房を。寝室を30cm床上げし畳敷きとし (高齢化対策)、二世帯利用も可。
66	橋本よしお	東京都杉並区	66歳	・ 延床面積 183.15m ² 1F 113.85 2F 69.30 ●長い年月、家族構成の変化に対応できる設計ができるか。 ●多重世代同居が可能な住宅とは?
103	二宮倫行	神奈川県茅ヶ崎市	?	・ 延床面積 約200 m ² ・ 家族構成 祖父母+夫婦+子供2人 (二世帯住宅) ・ 軸組構法、漆喰塗り、屋根~丸太組+TCS 材→民家風の外観 ・ 内装は木を主体に仕上げる ●「自然と団欒」テーマ
37	徳田直樹	静岡県静岡市	無職	・ 延床面積 146.71m ² 1F 81.64 2F 34.69 (地下室、ベランダ) ●浴室、台所を広くとる ●2階にトイレを設置 ●エレベーターの代替を
548	三好正夫	山口県防府市	無職	・ 延床面積 154.7 m ² 1F 100.4 2F 54.3 ・ 木造在来構法 (真壁→土壁) ・ 瓦屋根、外壁→モルタル防水塗装

19	尾添寛三	島根県大田市	無職	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 213 m² ・中庭を中心に、グリーンスポットで居住スペースをサンドウィッチした木造2階建て住宅
71	米田悦則	鹿児島県垂水市	44歳	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 159.6 m² ・家族構成 夫婦+子供3人 ・在来軸組構法 ●木造といっても他の材質が多用されすぎている。
2	木村茂樹	青森県西津軽郡	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 273.52m² ・延床面積 188.74 1F 105.13 2F 83.61 ・家族構成 夫婦+子供2人 (40代) (小中学) ・2階建て ●1階をより明るく庭と一体化 ●多少の雪でも開閉できる窓 ●片流れ屋根で雪を落とす
185	狩野由宏	群馬県勢多郡	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・床面積 1F 約150 m² 2F 約70 ・家族構成 祖父母+夫婦+子供2人
43	吉原 統	茨城県土浦市	自営	<ul style="list-style-type: none"> ・建物仕様 木造、アルミサッシュ、三州瓦、パワーポート外壁、軒下モルタル仕上げ ・家族構成 夫婦+子供2人 ●自然環境に適した省エネタイプの家づくり
589	吉川正博	東京都千代田区	自営	<ul style="list-style-type: none"> ●定寸の柱材と定尺のベニヤ板を用い、低コストで同質の素材を確保する。壁ユニットのパネル壁面+柱ユニットの組み合わせ。部屋の中心に4本の柱を設け屋上の荷重を受けるとともに広い空間のアクセントとする。
550	大沢洋可	山梨県甲府市	自営業	<ul style="list-style-type: none"> ・地上3階+地下1F(タンク等) ・延床面積 220 m² ●外観はどんな街並にも合うようシンプルに。また、強度、建築コスト、スタイルの面から、ほぼ立方体とし余計な装飾はしない。 ●建物の保護のために1F外側にテラスと軒を設ける。
186	山口洋一郎	佐賀県武雄市	自営業	<ul style="list-style-type: none"> ・戸と障子を利用し家の中全体が一つの部屋として使用できるようにした。

				<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホールを設け(自然木の利用、天窓、階段)る。 ・床下の柱を少なくし、また窓や戸を多く設け通風をよくする
569	斎藤 勝	神奈川県鎌倉市	歯科医	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地 約70坪 ・高床式で通風をよくし、採光窓、サンルームの設置で十分に太陽光を採り入れる。
143 144	奥沢 登	群馬県佐波郡	オクザワ設計会社?	<p>①延床面積 215.05㎡</p> <p>1F 98.43</p> <p>2F 84.74</p> <p>小屋裏 31.88</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住空間を広く使用できるように居間、ダイニング、キッチンをオープンにし、2Fの床を天井として天井高とする。子供部屋は自由に仕切れるよう入口を2ヶ所とする。吹き抜け、天窓の設置。ファミリールームを造り家族のフリースペースとして利用。 ●梁→米松一等材料 柱→杉一等材料 外装内装→米杉 ●窓→木製サッシ+断熱材(100mm、24kg)で高断熱高気密住宅 ●木のもつ温かさ、柔かさを知ってもらうために、全体を木づくしの住宅とした。 <p>②</p>
591	アットホーム スト(殖産住宅)	東京都新宿区	住宅メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 204.93㎡ 1F 108.38 2F 96.55 ●プライバシー、騒音を遮断し一歩入れば、光と風のあふれる親子だけの世界
18	奥村寛三	東京都大田区	桑沢デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 120㎡ 1F 42 2F 42 3F 36 ・敷地面積 70㎡+私道(4m) ・家族構成 親子2世帯4人 ●半地下部~1F床部までコンクリート造、以上は木造。半地下に駐車場とプールを設置。
8	中山賢一	神奈川県横浜市	デザイナー	<p>木造の耐用年数を100年とし、通し貫4寸、5寸柱を使用した木造軸組構法とした。(隣と接触しない独立型)</p>

555	丹沢登志郎	京都市伏見区	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 178 m² <li style="padding-left: 20px;">1F 89 <li style="padding-left: 20px;">2F 64 <li style="padding-left: 20px;">3F 25 ・陶芸工房をもつ3世代住宅 ・家族構成 祖父母+夫婦+子供2人 ●祖父母の部屋は2Fだが、風呂場、リビングとの関係では0.5Fの差である。
11	福田秀雄	神奈川県鎌倉市	明治大学 名誉教授	<ul style="list-style-type: none"> ●台形(1組の対辺が平行な四角形)平面形をもつユニットを各階層毎に6個ずつ配置し、家屋外形と中央空間が六角形をなすように構成(六角中央空間をもつ六角プレハブ住宅)。 ●各々のユニット室には居住空間としての機能をひとつひとつ配置する。 ●中央空間の上部を開閉自在な天窗とし、煙突効果と温室効果をもたせる。 ●工場生産(プレハブ化)可能 ●建築コストの削減 ●リゾート性
99	沼田 幹	千葉県千葉市	千葉大2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「木のドームによる二世帯住宅」～家族とは、1本の大きな木のようなもので、ひとつひとつの枝を幹が支えている。その大きな木をイメージしてドームを中心とした二世帯住宅～
38	上治吾郎	千葉県船橋市	県立薬園台 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦+子供2人 ●特徴 ① 階段の段に沿って三角形のガラスを張り、昼は外から、夜は外へと光の出し入れを行う。 ② ドアには2～3種類の材料を使う。(ex. ガラス=木+ガラス) ③ できるだけ三角形を用いた
603	迫 博昭	埼玉県坂戸市	高校3年	<ul style="list-style-type: none"> ●「自然の家」～自然に多く触れ、リラックスすることでストレスを緩和させるを試みる ① A～D棟からなり、多くの自然木や池で構成された庭を中心に渡り廊下や踏み石で建物がつながっている。 ② 家族のコミュニケーションをはかるために、サンルーフの中に4人が同時に入れる露天式風呂場を設ける。 ③ 高齢化対策として三世帯住宅

				としての形態を考慮する。
602	田中 栄	埼玉県坂戸市	高校3年	<ul style="list-style-type: none"> ・3階建て ・4～5人家族向け ・屋根裏部屋の設置（アルプスの少女ハイジのように藁を敷き詰めて寝てみたい） ・広いベランダ ・近所の人との茶飲み場→縁側
613	野口亮輔	埼玉県狭山市	小学5年	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建て（八角形がベース） ●いろいろな場所から眺められる家を構想。一番の特徴は、浴室から庭が見えること、思い切り居間を広くしたこと、2階の子供室がつながっていること。また、木造住宅には欠かせないものと思われる暖炉が二つあることも。
614	野口大輔	埼玉県狭山市	高校1年	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建て ●特徴 ① 南側の部分が全て窓 ② 屋根がその窓に近づくほど上に広がり、逆に床は階段で下に広がっている。 ③ 1F＝台所、食堂、居間等が段々状になっている。2F＝居間が吹抜けになっていることにより全ての部屋から南側の大きな窓を通して外の景色を見ることが出来る。 ④ 1F和室の上部が室内ベランダのようになっている子供部屋とつながり、遊び場として利用できる。
567	大江和俊	神奈川県座間市	大学1年	<ul style="list-style-type: none"> ・多角形住宅 ●室内で太陽光を採り入れられるように窓の向きを考え、1Fの広間では天井を半分斜めにした。
137	土屋思真	神奈川県横須賀市	横須賀高校	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦＋子供2人 ●暖かみのある木造に、加えて明るい陽の光が採り入れられるよう形を工夫した窓を多く設ける。 ●居間は天井を高くし、窓を斜めに取りつける。2Fの床を天井より低くし、出っ張っている ●屋根は北側の傾斜を大きくする。（2階建て）
625	伊東宏一	静岡県小笠郡	高校2年	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地 274.68㎡ 住宅地に位置し北側と東側に6m道路がある。

				<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 187.28㎡ 1F 87.45 2F 72.6 3F 27.23 ・家族構成 夫婦(40代) + 子供2人(12,8歳) ●「自分だったらこんな家に住みたい」 ●設計の注意点は、風通し、目線の長さ、内外のつながり、デザイン
162	山口昌宏	愛知県豊川市	高校1年	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 58.125坪 1F 33.5 2F 24.625 ・家族構成 祖父母+夫婦+子供2人 ●予備室及び納戸は将来台所と食堂にする。 ●2Fの吹抜けの上はトップライトとする(中庭に位置する)。また季節に応じて窓を取り換えられるようにする。 ●各部屋は南側に面する。 ●居間は他部屋より一段床を下げる。 ●流し台は対面式とし、流し台より高い所に開口部をとり、その上部には収納部をつくる。 ●屋根はへの字型にし南側に多く面積をとり、この面にトップライトを取りつける。
572	村田正樹	兵庫県高砂市	高校2年	<ul style="list-style-type: none"> ●「木と現代建築技術の調和」 森林資源の活用に疑問があるため、木だけの家は考えなかった。その木のもつ「温かさ、丸み、力量」を現代技術との調和から作り出した。 イ. 丸み→ドーム型の屋根 ロ. 柱は室外に ハ. 扇型の窓 ニ. 外壁の色を大胆に ホ. 木とレンガの調和 ヘ. 木の窓枠をお洒落に ト. 木の框の節は緑 チ. ガラス多用→広・明空間に
563	河上浩一	大阪府堺市	高校3年	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2世帯住宅(2階建て) ・家族構成 祖父母+夫婦+子供2人(就学前) ●高齢化社会を考慮にいて。プレハブメーカーなどの規格住宅は使い易そうだが、日本の風土にマッチしていない。特に老人にとって湿気は耐えがたいで

				<p>あろう。そのためにも木造を。また、日本庭園をつくり楽しんだり、広めのホールを設け将来車イスを使用するような時には補助がしやすいだろう。</p> <p>●若夫婦世帯には、デッキを設けてパーティーに便利のようにしたり、芝生を敷いたり、また収納スペースも多めにとり、日常生活の動線も最小限に済むように各相互の部屋を割り振る。</p>
134	二田 毅	福岡県大野城市	中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・二階建て住宅 ・家族構成 4人 ・客間(?) ~多人数でもカウンターがあって便利。出窓でベンチ式になっている。 ・階段の下に電話ボックスをつくる。誰にも聞こえず話ができ、2Fには電話ベルが聞こえやすくする。 ・2Fのベランダは広くし、庭に代わって物干し場として活用できる。

第1回木造住宅デザインコンクール応募者（女性）

No.	氏名	住所	職業	備考
104	渡辺一美	群馬県前橋市	美容師	<p>・2階建て住宅</p> <p>●「曲線を用いた自由な平面の家」</p> <p>家の中央に曲面が通り全ての部屋はこの壁をくぐり入ってゆく。この曲線は外まで伸び外部と内部の空間も作り出す。曲面のもつ温かな感じが視覚をやわらげ気持ちをリラックスさせる。屋根はアール、山小屋風に天井を組む。小屋組みに組んだ角材の間にはガラスなどを入れて仕切りに広がりを見せたい。</p>
564	三崎めぐみ	大阪府大阪市	高校教師	<p>・延床面積 212.6 m²</p> <p>1F 129.62</p> <p>2F 82.98</p> <p>・家族構成 夫婦+子供（女2人）</p> <p>●1Fに関して</p> <p>①玄関は、広くゆったりとできるように。なにより明るくするため刷り硝子の戸。花を大きく生けたいので、花台として大きくゆったりととる。上り口はワンクションおいて広くゆったりと。下駄箱、クローゼットは出し入れ口が見えないようにしたので横手にもっていった。</p> <p>②廊下は、広めに二人をろって通れる（玄関側は1.5m、横手は1.2m）。</p> <p>③茶の間はちょっとした来客の時にも上がって頂ける。また、大勢での集まり時には台所側の障子を開けてオープンにする。押入れは少し大きめに（掘りごたつを入れ、冬も落ち着いて暖かく）。</p> <p>④台所はステップダウンで和室と同じ高さにするよりも、目線が少し下がって落ち着くのでは。台所はとくにち明るくしたいので、はき出しの四枚戸と側面ははめ殺しの大きな窓（夕暮には夕日を眺めたいので）。廊下に通じている上り口はオープンで戸はなし。茶の間を通らずに出入りできる。</p> <p>⑤脱衣、トイレの物入れは必要を感じるのでも小さくても欲しい。浴室はリラックスできる所なのでゆったりと。</p> <p>⑥18帖のリビングルームは、天</p>

				<p>井裏の梁が見えるように天井はない。北西なので明るくしたいため、4枚のはき出しの戸と大きな窓。木の香り。ソファ、家具等は置かず広さを感じる部屋に。押入れは来客用の敷き物やクッション等を入れておく。音楽を楽しむため防音・遮音は完璧に。(廊下側の戸は刷り硝子の4枚戸～廊下が暗くならないように。床暖房)</p> <p>⑦客間は出窓書院の1間の床の間(雛人形等を飾ることができるように)。</p> <p>●2Fに関して</p> <p>①階段を上りきって正面にはめ殺しの大きな窓をつけた。階段の上り口からのホールは天井を高くとった。南側の日当たりの良さを増すベランダの出入口の上にはめ殺しの大きな窓をつけた(子供部屋が明るくなる)。ソファを置き、マットなどを敷いてサンルームとして最適。</p> <p>②子供部屋の1坪程の空間は机を置き勉強室として。広がりを出すために出窓をつける。東側の窓は大きくとった。タンスは普段着など、他は納戸に。出入口の戸は障子。</p> <p>③納戸は親子共通で使えるようにゆったりと明るくするため、風通のため窓をつけた。</p> <p>④6畳の和室は、夫婦のためだけでなく、家族団欒の場として使う。2Fは板の間ばかりなので座って落ち着けるように。窓、出入口の戸は共に障子。窓の方は硝子障子。</p> <p>⑤夫婦寝室は、ベランダに面した一番いい部屋。出窓。1.2m幅奥行き40cmの凸所は机を置いてちょっとした個室の雰囲気。和室との出入口は障子。個室にはしたくないので(普段は開けておく)。</p> <p>⑥ベランダはちょうど玄関の斜め上の正面にあるため、細い格子の柵のようなものをつける。(壁にすると風通りがよくない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁=和室以外はクロス ・柱、窓、床、階段は全てこげ茶色 ・窓枠は木の枠 ・外観=瓦屋根、色はこげ茶色 壁は薄おうど色
601	富山静江	東京都多摩市	74歳	・敷地 85坪

				<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 約58坪 <ul style="list-style-type: none"> 1F 33.5 2F 24.5 ・家族構成 祖母+夫婦+子供(1) ・二階建て ・北国にあるような寒さよけの引き戸。夏は涼しくなるよう工夫する。(玄関) ・腰の低い物入れ(祖母の部屋) ・勝手口を出ると、外流しがあるので漬物をつけたり、大きな魚をさばける。(土間) ・上げ蓋敷きの床収納(土間) ・配膳台の上部(点線部)は食器棚のガラス戸。(台所) ・飾りの暖炉~暖房器を置き、まわりのレンガを暖める仕組みにすれば、食堂も暖かい。(居間) ・飾り床(おどり場の下)~照明、砂利など。
554	長谷川晶子	神奈川県津久井郡	40歳	<p>●単純に、管理しやすく、木の美しさを主張し、永く存在していける木造住宅(外側)</p> <p>①風土にあった木造の住まい 湿気、強い風雨、日の光等を防ぎ、かつ四季の変化を楽しむこと。そのためしっかりした床下、ゆとりの縁側、たっぷりした屋根をもつこと。最近では風土にあわない、デザインのみの家が多い。</p> <p>②木のもつ美しさを強調する 唐招提寺などにみられるような重厚で永い年月その美しさを味わえる木を多用した住居であること。住居をしっかりと支えるように、廊下側には太くて頑丈な柱を。</p> <p>(内側)</p> <p>①単純にして簡素。管理しやすい合理的な暮らしを保障できる間取り。</p> <p>②よぶんなインテリアをしなくとも充分美しい日本間を活用すること。</p> <p>③冬は閉じ、夏は開放でき通風の確保ができる間取り。</p> <p>④家の中心を玄関、ゆったりした階段、広い踊り場が通り、光の帯が流れるようにする。そこを中心として家族の和と個々のプライバシーが守れること。</p> <p>⑤縁側の大切さ。強い風雨、日</p>

				<p>の光を防ぎ、あたたかい社交の場をつくり、外とのゆるやかなつながりを保てる。雨の日には物干し場や、子供の遊び場になれるようないくつもの利点がある。濡縁、縁側をもっと取り入れたい。</p>
188	柏倉敬子	栃木県鹿沼市	家事手伝い	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 318 m² ・延床面積 219.875 m² <ul style="list-style-type: none"> 1F 145.125 2F 74.75 (設計条件) ・環境 第一種住居専用地域 <ul style="list-style-type: none"> 建ぺい率 60 % 容積率 150 % ・敷地 東側に6m道路が南北に建っている ・家族構成 老夫婦(60歳～) <ul style="list-style-type: none"> 若夫婦(30～40歳) 子供1人(小学) ・駐車場 車1台スペース <p>①2世帯住宅 ②玄関を八角形とし、各部屋へのつながりを機能的に。 ③居間のトップライトは四角柱とし、やや大きめとした。 ④各部屋をずらし採光を良くした。 ⑤老夫婦の和室を変形にしたことにより、リビングと食堂とのつながりを作った。冬は掘ごたつを利用できるようにした。 ⑥御手洗いには食堂からも茶の間からも行けるようにした。 ⑦駐車場は息子の帰宅がわかるよう北側に配置した。 ⑧朝日をあびて老夫婦は目がさめる。 ⑨食堂は朝食中暗いので四角柱のトップライトを設けた。 ⑩2F部分はプライベートを考慮した。</p>
165	宮崎幹子	愛知県名古屋市	79歳	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て ・延床面積 145.90 m² <ul style="list-style-type: none"> 1F 98.00 2F 47.90 ・家族構成 5人
611	藤森久美子	大阪府枚方市	家事手伝い	<p>●「思い出のケヤキの木とともに」</p>

584	田村三智子	東京都調布市	会社員	<p>●「内と外の一体感」 天気の良い日は光を沢山浴びたい。雨の日だって、可能な限り外の明るさを確かめたい。夜は、満天の星の中で暮らしたい。そして、やっぱり木の家は、木(緑)の中で暮らしたい。 ・家族構成 夫婦+子供(2) ・パーティーを催せるスペースの確保</p>
624	根本優子	千葉県流山市	会社員	<p>・敷地面積 624.38㎡ ・延床面積 208.89㎡ ・家族構成 夫婦+子供(2) (小学5年, 2年)</p> <p>●「家族の触れ合いを大切に」 現在の住宅は洋風化され、それで良しとする安易な傾向がある。高級化志向と重なり、みたくればかり気にする現代にあって、実際住んでみると、使い勝手の悪さが目立つことが少なくない。それは、洋風形式がまったくそのまま日本の生活様式にあてはまらないから。核がぞくが主流になりつつある現在においても、家族構成員間のコミュニケーションは大切にされ、各自の部屋がありながらも知らず知らず家族が一つの部屋に集まり、ひとつのテーブルを囲んでいることが多い。そうした家族の心の触れ合いを大切にするといい日本人の国民性をふまえながらプランしてみた。</p> <p>①寝室は広々としているので、ゆっりりとくつろげ、カウンターを設けることでちょっと洒落てホームバー。新鮮な気分で二人の時間を大切にできる。(主寝室)</p> <p>②毎日の家事を終え一息つける空間として、お洒落する大事な空間として、母さんに多機能に使ってもらえる。(パウダーコーナー)</p> <p>③男の城として満喫してもらえたらよい。(書斎コーナー)</p> <p>④来客の応対場所は従来の居間ではなく、家族と切り離れた来客専用の客間を使う。(客間)</p> <p>⑤現在、食堂と居間が別個になり、居間は客間として、家族の団楽場所として形容されているが、ここでは家族専用の居間を食堂と違和感なく一体化できれば良いなという願いをこめてい</p>

				<p>る。(食堂、居間、ファミリープレイ)</p> <p>⑥子供がまだ小さい時は勉強するのも寝るのも一緒。成長したら各自の部屋として使用。この部屋は食堂、居間に面しているのは、食事を知らせる母の一声で聞こえるように、密接な関わりを大切にしたい。しかし成長したら、プライバシーを尊重するため、食堂、居間より高く位置して、少し距離感をもたせた。</p> <p>●反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和室をとらなかった ・もっとスッキリしたかった ・部屋を限定せず、多目的、多機能に使える間取りを考えるべきであった。
136	本橋 芳	埼玉県上福岡市	地方公務員	<ul style="list-style-type: none"> ・平家建て ・延床面積 142.01㎡ ・屋根→日本瓦一文字葺、軒出 5尺(勾配の長さ) ・外壁→リシンかき落し仕上げ ・軒裏→杉板張、化粧垂木現わし、銅キャップ付 <p>●秩父郊外の小高い山間に囲まれた土地を所有しており、自然豊かな環境を生かしてデザインした。</p> <p>①玄関は、畳を敷くことにより精神的な落ち着き感を与えた。</p> <p>②木の「呼吸」という特性から全体的に開口部を多くし、通気性を考えた。</p> <p>③樋は設けず軒出を長くした。そのことで一文字瓦の美しさを強調した。</p> <p>④水屋・炉などを設けることにより、日本古来からの茶道に親しみ、生活に余裕を持たせる。</p> <p>⑤寄り合いなどにも対応できるよう東西に長く、また中央部分に広い空間を持たせた。</p> <p>⑥北側に家族スペースを設け、夕涼みやゴロ寝などできるように。</p>
577	金城奈美子	神奈川県茅ヶ崎市	OL	<ul style="list-style-type: none"> ・二階建て
65	名倉啓子	静岡県浜松市	会社員	<p>●「必要十分の二間続きの和室・住宅」</p>

559	田崎紀子	新潟県新潟市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 母 + 娘 (80歳)(50歳) ●「シンプルで安全な老人向け住宅」 ①素材は全て木。極力金属類は使わない。 ②ドア、窓枠類は全て合成樹脂製。 ③光と風を友にできるようにして生きたいから窓は大きく。ガラスは全て強化ガラス。 ④塀は竹製品、壁は本格的な土壁、外壁は法隆寺正倉院の校倉造を模したい。 ⑤平屋であり、高床式にして床に収納部分を作る。道路からゆるい勾配にし階段は作らない。床下の収納部分にはコンクリートや合成樹脂よりもコルク材かおが屑を固めた物を使えないか。 ⑥段差は極力作らない。全体に床暖房。戸は全て軽い引き戸。閉める手間を省くため雨戸は採用しない。ただし防犯の点からハイテク技術を駆使したい。 ⑦年とともに身のこなしが悪くなるから壁面に出っ張りを無くする。収納家具類全てを壁面に作りつける(壁面が平らに)。 ⑧できるだけ人手をかけない設備を取り入れる。屋根の融雪設備、バイオ技術での風呂の水かえ、掃除もいらない方式。玄関に入ると赤外線で暖かくなるように。 ⑨居間の床は木、リビングセットは籐製。(寝室も同じく) ⑩トイレ、把手、洋式、便座の暖房、シャワー付。浴室、洗面脱衣所、収納家具類は壁面に作りつけ。浴槽はリハビリもできるように人ひとり手足を伸ばせる洋風に。床に埋め込み式。把手付。腰掛られる。浴室の床はゴムで滑らないように。キッチンには、最新のハイテクを活用して使い勝手のいい空間に。
189	山岡志津乃	富山県滑川市	公務員	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建て ・大屋根のみ。軒は長め、ベランダには屋根をつけない。
544	和田典子	大阪府吹田市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 180.5㎡

				<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て ・建築設計者の夫(36歳)とフラワーコーディネーターの妻(32歳)の住まい ①「集い」「明るさ」「くつろぎ」が基本ベース ②1Fは来客を迎えるパブリックゾーン。玄関横は夫の仕事関係のクライアントとの打ち合わせスペース。中央のリビングは休日になると集まる友人のためのゆったりとした空間の確保。大きな木のテーブルは訊ねてくる人々をあたたく迎えるわが家のシンボリック的存在。 ③2Fは夫婦二人のプライベートゾーン。お互いに仕事を持つ二人にはそれぞれの部屋があり、夫の部屋からアティックの仕事部屋に続く。東南のリビングには水耕栽培の温室があり年中緑を楽しめる。天井部分に収納可能な昇降ベッドを設置。外観は南面に開口、ガラスを多用し「明るさ」を、東西面のパネル部分にはペイント画を描き「たのしさ」を追求した。
546	団野聖子	大阪府守口市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 217.38㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 141.19 <li style="padding-left: 20px;">2F 76.19 ・家族構成 夫婦+子供(2) ●特徴は、玄関がとても広く、昔の土間風で左右に上がり框がある。これによって家族と来客を分ける。廊下を渡った客は左側の坪庭を眺めながら和室6畳へと招かれる。住む側は、玄関の横にすぐ台所があり、比較的長く居る主婦のことを考え南側に位置しているので暖かさを感じる。客の訪問時に、買物から帰ってすぐに台所へ荷物を持っていけるように考えた。 ●内に開放的かつプライバシーをも守る。通風もよく、庭には樹木を茂らせ、自然を自然に採り入れるように工夫した。風呂からあがると、夏なら涼みに庭へすぐ出られる。2Fは将来部屋数を増やすこともできる。真中にサンルームを取り入れ、部屋でも庭でもない、サンルームと居間との間に段差をつけて自然を変えてみたりして楽しむ。 ●どの部屋も自然に接して、家族が生き生きと生活している姿

				を思い描いた。
570	木下宜子	大阪府大阪市	OL	<p>・二階建て住宅</p> <p>・家族構成 夫（サラリーマン） 妻（事務員・30代） 子供（小学生） （将来子供1人増を予定）</p> <p>●木造住宅と言えば少なからず数寄屋門で迎えられる門まわりや瓦葺き屋根、そしてこれでもかと言わんばかりの日本庭園等が思い浮かぶ。そうした日本の古典的な味は大事だが、実際には新しい世代にはそれだけでは暮らしにくい。そういうものを下地にし、敬遠されず、かつ現代の暮らしと共存できるラインを引き出す設計を試みた。</p> <p>①玄関は純和風の引き違い戸</p> <p>②ゲストルームは、来客があったとき、または人員に変動があった場合に備えて予備的な部屋をもつ。</p> <p>③アプローチ。比較的余裕をもたせた造りとし、階段の踏み面も40cm程とり落ち着きを出すために石貼りとする。</p> <p>④バスルーム、トイレ。ゆったりとした広さを求めるため1.5グリッドの幅をとる。</p> <p>⑤リビングルーム。家族が集えるように段差を設けて集まりやすくする。全て木製のものとする。</p> <p>⑥キッチン。セミオープンタイプとする。</p> <p>⑦植栽スペース、ポーチ。外部とのつながりを持たせるため、植栽スペースをとる。</p> <p>⑧チルドレンズルーム。現在1人だが、もう1人増えた時点で分割できるよう広めに確保し、中央でアコーディオンカーテン等で仕切りをつけられるようにする。</p> <p>⑨階段、手摺り。2方向に昇降できるようにする。</p> <p>⑩テラス、オープンスペース。ベランダにつながる明るいスペースを開放し、誰もがくつろげるベースにする。</p> <p>⑪北面に作り付けのクローゼットをもってきて、収納のしやすさを求める。</p>
571	村上典子	兵庫県神戸市	OL	<p>・2階建て住宅</p> <p>●急な坂道を必死に登ると大阪</p>

				<p>湾が一望できる六甲の山手。雪の翌日は、スキー場のような美しい光景が見られ、鳥のさえずりや美しい緑、樹々に囲まれているこのまちには“山小屋”“ロッジ”風の木の住まいがイメージされる。我が家はピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルートを有する音楽一家（趣味の域を脱しないが）。ピアノが端に設置される1Fリビングの一段アップした板の間スペースは、和室の板の間やダイニングルーム、テラス→庭というアウトドアスペースへの“つながぎ”も兼ねているが、あるときはアンサンブルを楽しむステージともなるだろう。そのハーモニーは、リビングのソファだけでなく、コンサートホールでいうなら“ワインヤード形式”とも呼ばれる奏者と聴衆の一体化も可能となるように、1Fの和室の障子をあげたり、ダイニングとの間のタテ型ブラインドをあげたり、吹抜け上部のフリースペースへも続き、1Fと2Fをつなぐ階段の踊り場のベンチまでも楽しむことができるだろう。どの部屋からも海や緑を長め、可動仕切によって庭までも平面的につながり、吹抜けを通して2Fまで立体的につながるこの山小屋・ロッジ風の木の住まいは、自然の中で大宴会も開催可能な“憩いの家”となるのでは。</p>
578	箕部容子	福岡県小倉北区	OL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2階建て住宅 ・ 敷地面積 224 m² ・ 建築面積 90.7 ・ 延床面積 133.6 ・ 家族構成 祖父+夫婦+子供 (2)中1, 中3) <p>●自分が住んでみたい家</p>
617	吉田令子	福岡県福岡市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木造2階建て住宅 ・ 敷地面積 340 m² ・ 延床面積 189.75m² <li style="padding-left: 20px;">1F 103.95 <li style="padding-left: 20px;">2F 85.8 ・ 家族構成 老夫婦(70代) + 若夫婦(40代) + 子供(2)(高2, 中2) <p>●居間、茶の間、台所を2Fに配しワンルームに。子供室も2Fに、朝シャンができる洗面所、全体を二重窓として音楽室とし</p>

				<p>でも使用可。カラオケも楽しめる。</p> <p>1Fは夫婦、老夫婦の寝室、客間（老夫婦の居間として兼用）サウナ付浴室、階段下を利用した靴、コート入れコーナーも便利であろう。また2Fの台所横にガラス張りのユーティリティを設け、外階段もつけた。雨の日にも洗濯物が干せる。台所には、中華用大口ガスコンロを設け、対面式、電磁調理器下にはオープンレンジを。玄関前の外壁、階段外壁、ユーティリティの外壁にガラスブロックを使って明るさを確保。1Fの洗面所にはミニ洗濯機を。 — こんな家に住みたい。</p>
622	小林八重子	埼玉県志木市	日大3年	<p>・2階建て住宅</p> <p>①外観：玄関から部屋（リビング・サンルーム）までに扉が無く、風が入り込むので塀を高くした。塀はコンクリートをそのまま使用し、上をフラワーボックスにして、ベランダと合わせ、高さをカバーしようとする。外壁は白に近いクリーム色。門は付けない。</p> <p>②1Fリビング・サンルーム：サンルームの吹抜けから常時設置された梯子で2Fへと出入りできるようにする。2Fの上があった所はイスかクッションを置いて休憩できるといいなと思って作った。洗面所へのドアは木目のドアで少し重みのあるものに。台所の目隠しに格子を部分的に付ける。</p> <p>③1F和室：リビングと40cmの差を作り、端に座ってリビングのTVや何かを眺められるように考えた。日本人はイスに正座することもあるので、イスの役割もする和室があればと考えて。高さを設けた所は収納できるようにし、窓はやや低い位置に小さく作って、和室っぽく。壁は内装と同じ白壁にし一体感を出す。窓は出窓で障子を付けた。</p> <p>④玄関：ドアは木目調の90×200cmで縦長な印象が与えられるよう吹抜けにした。玄関のガラスは刷りガラスで中が見えないようにし、鍵は二つ、覗き窓、鎖を防犯に備える。把手等の金具は金色で統一。内装は白壁と濃</p>

				<p>茶の木枠、柱で、床も板かコルクにし、木を全面に出し明るく、可愛い小屋の印象の家にした。2Fへの階段は12段で90cm×30cm×高さ21cm/段位に。</p> <p>④1Fに特に部屋を作らなかったのは、いろいろな形で家族がくつろげる場所があればいいと考えた事と、親しい人と呼んでの気軽なパーティーやお茶会が開けると。キッチンにはできるだけ沢山の収納場所を設ける。</p> <p>⑤2F洋間：明かりとりの窓なので開閉はできない。12.5畳にしたのは、子供部屋なら家具で分けて二人で使える事、また子供がいない場合、敷居を作り夫婦各々の書斎になるのではないか。敷居の部屋の方が使い途にバリエーションができるだろう。</p>
629	吉尾 朋子	大阪府柏原市	大阪教育大 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て住宅 ・家族構成 親夫婦+息子夫婦
568	藤岡 典子	愛知県碧南市	高校2年	<ul style="list-style-type: none"> ・3階建て住宅 ・延床面積 205.77㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 70.80 <li style="padding-left: 20px;">2F 64.17 <li style="padding-left: 20px;">3F 70.80
73	清水 亜希子	岐阜県本巣郡	大垣日大高 校	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建て住宅 ・延床面積 145.2㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 79.2 <li style="padding-left: 20px;">2F 66 <p>●〔1F〕</p> <p>①土足で上がる②和室に入る時は、前の段の下に靴を入れる。</p> <p>③居間1はスペースが広い分多目的に使う。④居間2は光と風が多く採り入れられている。⑤暖炉を置き暖かさを調節する。</p> <p>⑥空間利用(広く)</p> <p>〔2F〕</p> <p>①夫婦共働きを基準にし、書斎を二つ設ける。②必要で最小限のスペース。③光と風が入るようにした。</p>
74	森 紀世美	岐阜県本巣郡	大垣日大高 校	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建て住宅 ・延床面積 173.25㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 87.45 <li style="padding-left: 20px;">2F 85.8 <p>①客間は日当たりがいいように。</p>

				<p>②便所はどこにいても行けるように。</p> <p>③子供部屋には弟または妹が入り、何かあってもすぐ親の所に行けるように(2F 右)。</p> <p>④左の子供部屋は兄または姉。親寝室の隣でなくてもいいが、まだ心配なので前にもってきた。</p> <p>⑤家の前に庭を作って、子供達が安全に遊べるように草等で囲む。</p>
75	鈴木千晶	岐阜県大垣市	大垣日大高校	<p>・2階建て住宅</p> <p>・建ペイ率 56%</p> <p>①リビングにある円は、掘りこたつのようなもので深さ30cmぐらい。床に座っていても、背もたれになるし、椅子のかわりにもなる。</p> <p>②階段は2Fからすぐに便所に行けるよう少し工夫した。階段の空間を吹抜けにしたのは、少しでも明るくし電気を使わないようにと。</p> <p>③家族4人で想定すると部屋数は少なくすむ。庭には花壇を。休日には家族皆で、その季節にあった花を育てれば楽しい一日が過ごせる。</p> <p>④2Fの子供部屋は、とても暖かい南側にもってきた。</p>
76	川出紀子	岐阜県大垣市	大垣日大高校	<p>●広々と使い、ゆとりのある家に。工夫したことは、8畳の洋間とダイニングと和室をひとつにつなげるようにして沢山の人を招いてパーティーができるようにした(ただし和室の部分は10cmの段をつける)。家族(両親+子供(2))がよく利用する洋間は、テラスを設け外に出られるようにした。光がよく入るように大きな窓にした。</p>
25	斎藤奈緒美	福岡県太宰府市	筑紫女学園短大	<p>・2階建て住宅</p> <p>●普通の家だが、実際に生活するならばやたらと凝っているよりシンプルな方がよい。この家の中心は1Fホール。このホールを通じてキッチン、リビング、和室、2F、トイレ、バスルーム、玄関とどこへでも行ける。2Fホールも各部屋に面している。</p> <p>キッチンは広々とした朝日の入り明るく、開放的な空間。東南のコーナー出窓は、採光を兼ね</p>

				<p>たアクセント。 リビングには、出窓の下に収納スペースを設け、子供のおもちゃやアイロン、ミシン等の収納に。わざわざ家事室を作らなくても事足りる。 唯一の和室は、一室しかないからこそ本格的に、床の間に書院を設け、広縁を作り、その端に小さな地袋をつけて趣を出した。雪見障子や欄間をつければ益々よさそう。 南側の玄関は明るく、吹抜けによって印象を強める。階段はゆったり昇降できるよう少し余裕をもたせている。サンタリースペースも毎日使う場所だからこそ広々と。 2Fのプライベートルームにはそれぞれにベランダがあるので布団を乾したり花を置ける。東側の2部屋は子供室、西側は寝室。子供室には防音も兼ねて小さなクローゼットを作り付けた。奥行きが浅いので細かく仕切って箆笥のように使うとよい。寝室のクローゼットはたっぷりとしているので、左右を夫婦で使い分けられる。三角形の小さな出窓が寝室のアクセント。 作り付けの収納家具があれば、部屋に置く家具が少なく済み、また空間に凹凸が少ないので掃除がしやすく余計な動線がない。これが一番のポイント。</p>
--	--	--	--	---

102	古川礼子	東京都中野区	主婦	<p>・2階建て住宅</p> <p>●子供も自立し、いずれ夫婦だけになった時も、友人達と心ゆくまで楽しみ、気兼ねのない、おおらかで、暖かい家になりたい。</p> <p>①1Fの居間部分は、屋根まで吹抜けとし、大黒柱が建ち、梁が見えるようにし、天井(屋根)部分はサンルーフを通し、日差しが梁に伝わり、木のぬくもりを暖かく感じられる雰囲気、居心地の空間に。ゲームルームは趣味の部屋として多目的に使用。</p> <p>②2Fは子供部屋として使用し、いずれにはゲストルームにできるよう半分は畳、半分は洋間とし、アコーディオン式に間仕切りをしておき、用途に応じて使用する。2Fからも居間の様子が分かるように、あえて廊下を作り、木の手摺りを付けた。</p> <p>— ニュファミリー、洋風ではあるが、木をふんだんに使い、木のもつぬくもりを十分に味わえる住宅を —</p>
138	矢田部節子	東京都小平市	主婦	<p>・敷地面積 126.07㎡</p> <p>・延床面積 172.63㎡</p> <p>1F 70.18</p> <p>2F 55.89</p> <p>・家族構成 祖母(77) + 夫婦(50,49) + 子供(20,19歳)</p> <p>●老人の住みやすい家(佇まいは古くても若者の住みたい部屋もある)</p> <p>①地袋を多く設け、物を入れやすく、片づけやすくする(上は多目的台)。老人は足元が危ないので畳の上のできるだけ物を置かないように周囲が気をつける。段差も避ける。</p> <p>②家族と接することができる入口も2ヶ所設ける。</p> <p>③友人がいつでも気兼ねなく遊びに来られる、玄関からも、庭からも。</p> <p>④病気になった時看護しやすいベッドの高さ。食事をベッドでする時は枕元の障子を開け、飾り台の上にトレー等をのせる。電話も置き、内線呼び出しができる。</p> <p>⑤トイレは少し広めに。部屋の近くで、そして明るい事。</p> <p>⑥膝などの痛みで正座ができた</p>

				<p>い老人が多いので、夏でも机は掘ごたつ式がよい。</p> <p>⑦老人にも食事の支度ができるように、台所はシステムキッチンでなくシンプルで使いやすいものを選ぶ。ガラス戸で見える食器棚、安心しておける台等。</p> <p>⑧狭い部屋を平素広く使いたかったので引込み戸を取り入れた。</p> <p>⑨若者はロフトのある部屋に憧れる。</p> <p>⑩屋根は年配者好みと耐久性を考慮して日本瓦にした。しかしロフトの上にトップライトが調和しないので別々に峰を取り、東側ロフトには各々朝日が入るよう窓を取り付けた。</p> <p>⑪防音壁、床材を張り、老若が共に暮らせるようにした。</p> <p>⑫裏の家の日照を考え、東側を多く開け、北側にガレージを配した。</p> <p>⑬北側にトップライトをつけ明るく、使いやすい部屋に。</p>
623	上條町子	東京都八王子市	主婦	<p>・延床面積 約176 m² 1F 約 99 2F 約 77</p> <p>●家族の触れ合い。採光・通風を大切に、空間と時間を自在に住みこなす家。</p> <p>①夫婦と子供2人を想定したが将来どちらかの子供が結婚して同居する場合にも、最小限改造対応できるように考える。</p> <p>②開閉部分ではできるだけ引き戸にし、それも壁の中に入れ込む形にする。</p> <p>③収納家具はすべて同じ材質で天井までの高さの両面仕上げのものを誂える。これを移動すれば間仕切りともなる。</p> <p>(1F)</p> <p>④玄関・ホール・階段：階段下になる部分を利用して玄関を半間ほど広げ、簡単な接客スペースとする。椅子を置けば外交員などと上がり框に座って話ができる。その奥の部分は収納とする。階段は途中に踊り場を作って安全性を高める。下の3段程は収納引き出しをつけてもよい。階段した空間を利用して、庭側から開けられる物置を作る。トイレ側にも収納部分を付ける。</p> <p>⑤ライトコート：暗くなりがちな廊下やホールを明るくし、リ</p>

				<p>ビングへの通風も図れる。浴室の窓も2面取れて、緑を眺めるくつろぎと換気の便が得られる。</p> <p>⑥リビング：広いリビングは南側部分に吹抜けを作り、2Fの3つの個室の窓がすべてそこに開くようにする。これによって子供建ちの動静も分かり、どこにいても家の様子が把握できる。吹抜け部分には梁を剥き出しのまま渡しておき、将来には2Fの床を貼って2世帯住宅とすることもできるようにしておく。両側に一段低くしたタイル貼りの室内テラスを作る。この正面にマントルピース風の飾り棚などを作ってリビングの中心とするのもよい。室内テラスの両側はガラス戸にして外のテラスに出られるようにする。また室内テラスの上部にトップライトを付け採光を図る。室内テラスは一段下がっているので、その部分に引き出しを付けて床下の収納部を作る。</p> <p>⑦台所・ダイニング：洗濯機・洗濯流しの前にルーパー扉を付けて隠すこともできる。主婦収納というのは、過程事務のさまざまな書類、学校関係、領収書、家計簿、名簿、電話帳、文房具、薬品等こまごました物を整理しておく戸棚。扉の裏にもたくさんポケットをつけて、扉が重くなるようならキャスターをつけてもよい。ダイニングテーブルが家事室となる。</p> <p>⑧トイレ：幅に余裕を持たせ、病人・老人の介護の便を図る。また、流し台や鏡を付けて来客の化粧直しなどに便利なようにする。安全のために引き戸とする。正面の出窓は、中央でなく両側をガラスにすれば外からの視線が気にならない。</p> <p>⑨和室：ドアを開けると板畳が押し入れの前まである。スリッパがドアの外に並ぶのを避けるのと、来客用の布団などを干そうとする時、スリッパを履いたまま押し入れの前まで行ける。 (通し柱を通す) (2F)</p> <p>⑩洋室1・2・3：3室間の間仕切りは天井までの収納家具としてあるので、移動すれば部屋の広さも収納の分量も変えるこ</p>
--	--	--	--	---

				<p>とができる。3室とも吹抜け部分に向かって窓が開いている。</p> <p>①洋室1：夫婦寝室。ウォークインクローゼットから書斎に行けるようになっているが、廊下からも出入りできる。この書斎とウォークインクローゼットの一部は、将来台所と洗濯機置き場になるかもしれないので、ガス・水道と排水パイプは配管しておく。</p> <p>②洋室2：この部屋は窓が一面しかないので、トップライトを付けるか、廊下側の出入りの戸を透明ガラス入り（プライバシーのためブラインドを）にする。</p> <p>③洋室3：将来二つに仕切って使うことがあっても対応できるように、西側に窓を二ヶ所つける。</p> <p>④吹抜け：将来リビング・ダイニングになるかもしれないので正面の窓はできるだけ洒落たものに。</p> <p>⑤ミニベランダ：将来2世帯住宅にする時は、ここが玄関前になるので窓にせず、掃き出し口とした。1Fのライトコーナーかららせん階段で上がるように。</p> <p>〔2F改造例〕</p> <p>⑥玄関：廊下の一部を剝がして玄関とする。間仕切りに使っていた収納家具を、靴などの収納に流用する。</p> <p>⑦リビング・ダイニング：中央の洋室の南側壁を取り払い、床を貼って広いリビング・ダイニングとする。左右の部屋への出入り口を作る。窓はそのままにしておいてもよいが、片側から壁を貼って、もとの窓の厚みを生かし、飾り棚や文庫本用書棚として使う。間仕切りに使っていた家具は、台所や左右の個室で使うことができる。玄関からの視線を緩和するために、低めの両面仕上げの家具を置き、花や鉢物などを飾る。</p> <p>⑧廊下：浴室横に空間できるので、着替えなどを入れる収納家具を奥。もし2Fを他人に貸すなどの場合は、階段の降り口にドアか（鍵付き）壁を作ればよい。</p>
605	濱津佳子	東京都世田谷区	主婦	<p>・2階建て住宅</p> <p>●日常生活の中にかに木の温</p>

				<p>もりや緑の安らぎを家に取り入れられるか。</p> <p>(1F)</p> <p>①玄関ホールを広くとり、小さなテーブル等を置いて簡単な接客ができる。また1Fから屋根までの吹抜けを用いて、狭くても圧迫感のない空間を持たせた。</p> <p>②家族があくまるダイニングは明るく広々と、またキッチンとの対話もできるようにドアを付けず、カウンターで仕切る。バルコニーの眺めを楽しめるように2コーナーからの窓で変化と明るさを作る</p> <p>③キッチンからつながる2帖の部屋は主婦のためのスペース。簡単な書きもの、家計簿などをつけたり、細かなものの収納として確保。</p> <p>④9帖の洋室はまわりをぐるりとフローリングで囲い、一段下げてカーペットを敷き和室のような感覚で座ってくつろげるスペースに。</p> <p>(2F)</p> <p>⑤階段を上がりきった踊り場を少し広くして観葉植物等をおき、吹抜けに変化をつける。</p> <p>⑥2Fにバスルームをもってくことで来客中もプライベートな面を出さない出すむ。</p> <p>⑦主寝室に小さいテラスを設け外からは見えないように壁を作り、テラスとつながる部分だけ吹抜けにして小さくてもくつろげるミニ書斎コーナーとして。</p> <p>⑧2F部分、外からの目が気になりやすいので出窓や大きい窓は避けている。バルコニーに面する窓やガラスでその分変化させた。</p> <p>・玄関ホール、廊下も含め全室フローリング使用(WC、バスルーム、1F9帖洋室を除く)。 ・外装：ラップサイディング</p>
63	熊坂清子	神奈川県愛甲郡	主婦	<p>・敷地 西北26m 北東18m の長方形</p> <p>・延床面積 208 m² 1F 147 2F 61</p> <p>・家族構成 老夫婦+若夫婦+子供(2)</p> <p>(1F)</p> <p>①老夫婦寝室：8畳、押入れ、出窓式で下は物入れ、タンス置</p>

			<p>場、廊下、便所（寒い夜に備え近場に設ける）。</p> <p>②客間：8畳、床の間、廊下。平面図中①と②または③の続きの和室になり応用のきく部屋にする。廊下の突き当たりを土間にし庭に出られる。</p> <p>③茶室：4.5畳、床の間、廊下、生活の一部として設ける。</p> <p>④水屋兼用通路：水屋用流し、2間の和室へ行くための通路。光が入らないので天窓を設ける。</p> <p>⑤納戸：真中を通路にして物入れ、棚を設ける。</p> <p>⑥玄関：玄関を入れて土間の所と階段は吹上、坪庭が見えるようにガラス張りにし光と緑を採り入れて広さを出す。</p> <p>⑦洗面、便所2ヶ所：大切な部屋として花が生けられるよう棚を設け、その下は物入れ。兼用便所は汚れが激しいため男子専用を設ける。掃除用具入れは建物の中央にし、洗面所が丸見えにならないように。</p> <p>⑧居間：8畳、仏壇、物入れ、コタツ、出窓式で下は物入れ。居間から坪庭が見えるように。南側の出窓は日差しが入りすぎると落ち着きのない部屋になるので180 cmの窓にし障子で調節。</p> <p>⑨廊下：朝日がダイニングキッチンに入るように。観葉植物を置けるように日光を充分取り入れる（雨戸はブラインドシャッター）。</p> <p>⑩ダイニングキッチン：開放的な台所なので、家族で食事作りを楽しめる。居間、ダイニングキッチン、廊下の間仕切りの引き戸やドアは透明ガラスにし、一体感と広さを演出する。</p> <p>⑪貯蔵か及び勝手口：漬物や畑で採れたものを貯蔵するため、北側にした。通風をよくするため勝手口兼用の部屋にする。床下収納を設ける。</p> <p>⑫脱衣室及び風呂場：下着入れタンス、サウナ室、汚着物入れ、洗濯機置、外側の点線の部分を囲み坪庭を作り、風呂場、脱衣室から見えるようにする。</p> <p>〔2F〕</p> <p>①階段及びホール：階段は広めで勾配はゆったりと。玄関との吹上空間を作り、座りこんで本を読んだり、家族で音楽を楽しむ場にした。踊り場は120 cm位</p>
--	--	--	--

				<p>の高さにしコーナーガラスとして20cm位の出窓を設ける。</p> <p>②子供部屋1・2：両方の子供部屋がベランダから行けるようにし、ベランダの空間を広く、有効に使えるよう四角にした。子供部屋1を腰高位のコーナーガラスにして両方の部屋が明るく広く、美しく見えるように。</p> <p>③若夫婦寝室：プライバシーが守られながら閉鎖的にならないよう、部屋の前に坪庭を作る。子供部屋2との壁にモザイクタイルを施し、広がり、清潔感のある壁面にする。6畳をタンス置場や机コーナーの床より一段高くし、前の子供部屋2の屋根を少し低くすると日差しが入る。</p> <p>④便所、ミニ風呂：一つの部屋にしアコーディオンカーテン等で仕切る。</p> <p>⑤洗面、ミニキッチン：壁をはさんで洗面とお茶位飲めるキッチンを作る。</p> <p>⑥坪庭、ベランダ：防水をし雨が流れやすいよう少し勾配をつける。</p>
101	畑 圭子	神奈川県中郡	主婦	<p>・平家建て住宅</p> <p>●家という空間の中で“木自身が生きている”そんな家づくりを目指して。</p> <p>①木が生きている自然条件を作り出す。</p> <p>i 空気（風）：空気（風）が縦横無尽に動ける空間作り。→開口部を多く、引き戸に、やや高床に。空気の動く空間を大きくするために、居間兼食堂、台所及び内廊下は天井板を張らずに梁を出した状態にする。</p> <p>ii 水：木に余分な水分が含まれないような配慮。→雨水の流れをよくするために単純な屋根に。家に直接雨がつかないように軒下を長く。浸み込む雨水を少なくするために石畳を敷く。</p> <p>iii 光：広い外廊下や長めの軒下で一旦光を抑え、部屋の開口部を多くし軟らかな光をたくさん採り入れて安らかな空間を。</p> <p>②木と共鳴し合う材料を使う。</p> <p>i 建具：木戸、障子戸、板戸。</p> <p>ii 壁：主に塗り壁、板張り。</p> <p>iii 床：板または畳。玄関は土間。</p> <p>●木自身が伸び伸びできる空間の中でこそ、私達も気持ちよく</p>

				生活できる“共存の精神”を大切にしたい。将来、子供達の独立後、夫と二人で住んでみたい家。
135	辻本明美	神奈川県鎌倉市	主婦	<p>・ 2階建て住宅</p> <p>・ 家族構成 祖母+夫婦+子供 (1)</p> <p>・ 窓は、全て開閉できるようにFIXを使用しても、その上や下に開閉できるものを併用。</p> <p>●住宅展示場とは違って、実生活では細々としたものが必要になる。見た目だけを優先した住宅メーカーの器ではなく、使い勝手のよい、かつ無細工に見えない、中身のある住宅を考える。</p> <p>(1F)</p> <p>①玄関：冬は植木鉢を入れられるし、タイル敷だと気兼ねしないで水やりができる。ここで来客と話もできる。広さも感じられる。下駄箱の戸の表面には、ブロンズミラーを使用し、天井面までミラーだと狭い感じがしない。コート、ゴルフバックなども多く収納できる。</p> <p>②リビングルーム：腰壁まで板張り。へこんだ所はピアノを置いたり暖炉にしてもよい。</p> <p>③和室：障子は天井までで、鴨居は天井面と同じになるように埋め込む。敷居のコーナーはすみ切り、壁はクロス貼り、窓の下は収納スペースに。</p> <p>④キッチン、ダイニング：腰壁まで食器収納のためのスペース。シンクの前に水切りを設ける。高さ30cm、奥行25cm、ステンレスで囲み、水が流れるようにステンレス棒を並べる。壁面はタイル貼り。水切りスペースを設けることで壁よりも圧迫感がなくなり、水はねも心配せずに食器が洗えるし、カウンターが高くなることで調理の時の臭いもダイニングルームに行きにくくなり、逆にキッチン内も見えにくく、また棒を並べたことでお皿も倒れずに乾かせ、野菜も洗っておける。</p> <p>タイル壁面に調味料置き場をくりぬく。</p> <p>カウンターの下にはまな板を置くラックを取り付ける。</p> <p>スポンジ、洗剤をカウンター下脇水切り上に置く。</p> <p>⑤トイレ：照明は壁面に付ける</p>

				<p>ものを。天井で筒型の物は絶対しない。便器は健康の為に白でフタは黒などカラー色で。</p> <p>⑥洗面室：戸を開けても直接中が見えないように。洗面台の前の壁は鏡で、その上に天窓を取り付ける（湿気防止と明かりとり）。</p> <p>〔2F〕</p> <p>①壁際に机、本棚を設置して書斎として利用。冬場は畳敷きにこたつを置いたり、マージャンなどもできる。来客の場合には布団を敷いてベッド代わりに。</p> <p>（子供部屋横）</p> <p>②裁縫などをする時にフローリングの床はいくらきれいに行ってもスリッパで歩くので抵抗があるが、畳だと思ふ存分できる。洋服の整理、文机を置いて手紙を書いたり、昼寝もできる。</p> <p>（ベッドルーム～畳敷き）</p>
576	松村富士江	神奈川県横浜市	主婦	<p>・敷地面積 149.50㎡</p> <p>・延床面積 150.50㎡</p> <p>1F 75.00</p> <p>2F 75.50</p> <p>・木造2階建て・2世帯住宅</p> <p>・家族構成 老夫婦（70代）＋若夫婦（30代）＋子供(2)(5,3)</p> <p>●「親といっしょに暮らす-マスオさんタイプの場合」</p> <p>〔1F〕</p> <p>①親世帯のプライベートルーム：朝食のみここで二人でとる。畳のスペースはベッドスタイルで常時寝ることができる。</p> <p>②通り抜けのできる厨房：両方の家族の気配が感じられる。</p> <p>③子世帯の食堂として、朝食のみここで子世帯4人で食事をとる。兼、主人の書斎、主婦の家事室。</p> <p>〔2F〕</p> <p>①子供室は、（寝る、勉強する、着替える）必要最小限のスペースにおさえる。</p> <p>②通り抜けのできる厨房：来客時に居間と食堂を行き来できる。また食前は食堂へ、食後は居間へ団樂のサービスを移すことができる。</p> <p>③共有の食堂：夕飯・昼食は2世帯合わせてここでとる。</p> <p>●快適に暮らすために、夏は涼</p>

				<p>しく風通し良く、冬は暖かく日当たり良く。そして明るく使い勝手良く。</p> <p>プライバシーは尊重するが、個室に長くこもることのないように、家族全員の気配を感じる住まいに。</p> <p>2F玄関ホールのそそりたつ屋根の高窓は、開放すれば1Fより階段を吹抜けて風通しはよいはず。</p>
590	小沢まり子	神奈川県座間市	主婦	<p>・木造2階建て住宅(半地下)</p> <p>・延床面積 187.43㎡</p> <p>●家族全員が自然に集まってくるとリビングのある家が設計ポイント。友人が集まって遊べる場があり、それでいて家族の団樂と客間としての要素が同時に成り立つスペースに。リビングの中心には大黒柱の代わりに木のらせん階段を作り、木の香りと安心感を与えている。木の持つ良さは自然の中にとけこみやすく、その中に住んでいる人も自然の中で生活している実感を与えること。開口部を多くとって自然がシャワーのように家の中に入って来るようにデザインを考えている。また、プライベートルームとリビングと分け、自分に戻れる静かな時間も確保した。</p>
595	井沢美智枝	神奈川県平塚市	主婦	<p>・木造2階建て住宅</p> <p>・延床面積 51.0㎡</p> <p>1F 27.75</p> <p>2F 23.25</p> <p>●農家用の2世帯住宅</p> <p>我が家は夫の両親と同居している。家の建て坪数は50坪もあるが、屋根の形(入り母屋)を重視して建てているので、2Fは6畳2間しかない。それに座敷の8畳2間は客用にと常時あけてある。プライバシーなどというものは、ないも同じ状態。</p> <p>1Fと2Fを親世帯と子世帯に分けた。家の向きを、南向きにV字の形で建てる。そうすることによって、各部屋に一日中陽が入ると思うから。</p>
72	百田けい子	神奈川県逗子市	主婦	<p>・敷地面積 368㎡</p> <p>・延床面積 220㎡</p> <p>1F 144</p> <p>2F 76</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦(50代) + 子供(20代) ・環境 住宅街 東南角地 ●「自然環境を大切に、地球の事などを考えながら生活をしたい」→太陽と風と仲よく、人も家も共に呼吸をし生きている、湿気を少なくしよう、家族構成の変動に対応できる、年老いた人にやさしい、生き甲斐をもった生活を、街の景観を損なわない調和を、冠婚葬祭が行える。 ①冠婚葬祭の為に庭の出入口を2ヶ所設ける(和室と居間を続けて20畳)。 ②暖炉の熱や太陽の熱を利用して床暖房。レンガなどで余熱利用を。 ③1Fと2Fの軒下は、夏、簾などを掛けられるように。 ④居間、寝室は二重窓。 ⑤家の土台部分は湿気を少なくするために少し高くする。 ⑥家の仲のプライベートは充分守れ、かつ来訪者には暖かい心で受け入れられる、また入りやすい家。 ⑦フロアはすべて同じ高さで(老後のために)。ドアの建て付け、和室との境など。 ⑧素材の材木は、張り合わせものではなく、無垢材を。場所により間伐材などをたっぷり使う。 ⑨ビニールクロスではなく、土や和紙などを(壁には)。 ⑩北の部屋も南の部屋も温度・明るさは同じになるように。 ⑪居間の暖炉の熱が届く範囲に各寝室、台所、茶の間、和室、洗面所、トイレがある。廊下や玄関などに出て温度差がでないように。
14	千葉県流山市	西垣なみ子	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 45.5坪 ・延床面積 40坪 <li style="padding-left: 20px;">1F 21.5 <li style="padding-left: 20px;">2F 18.5 +屋根裏3坪、サンデッキ1坪 ・屋根：寄せ棟 ・家相良し ①窓は壁の厚みより外につける。 ②玄関とトイレの境の壁厚は、水音が聞こえないようにする。 ③風呂は常時適温が保たれる設備を設けると便利。 ④床下全部にコンクリートを敷きつめる。

62	阿部紀子	千葉県市川市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 134.51㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 71.28 <li style="padding-left: 20px;">2F 59.18 <li style="padding-left: 20px;">屋上 4.05 <p>●冬でも日当たりを良くするために、家が動くようになっている。但し水回り部分(円形部分)は固定している。</p>
85	飯島千枝子	千葉県成田市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 181.44㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 118.26 <li style="padding-left: 20px;">2F 63.44
105	田中敏子	千葉県浦安市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 152.625㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 87.45 <li style="padding-left: 20px;">2F 65.175 <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦+子供(2) <p>①南北に長い変形の土地→できるだけの部屋にも日が入るように。</p> <p>②通風と採光のため中庭をとる。</p> <p>③各部屋2面に窓を。</p> <p>④収納部をスッキリさせる。</p> <p>⑤押入れはどの部屋にも1間とる。</p>
106	”	”	”	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 165㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 109.7 <li style="padding-left: 20px;">2F 55.3 <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 祖母+夫婦+子供(2) <p>●将来、2世帯可能型(2F東南の部屋に水回り取壊を施しておく)</p> <p>①南に面しているので各部屋を南向きにとった。</p> <p>②ゆとりがもてるよう予備室を備える。</p> <p>③南側道路は、交通も多く人通りもあるので、門をあため西側にした。</p> <p>④寝室を1Fにしたのは、主婦の立場から。</p>
107	”	”	”	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 168.3㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 93.225 <li style="padding-left: 20px;">2F 75.075 <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 夫婦+子供(2) <p>①団楽スペースを日当たりの良い2Fに。</p> <p>②L・D・Kは昼間使用することが多く、個室は夜を過ごすことが多いので下にもってきた。</p> <p>③来客の寝室として和室を用意。</p> <p>④子供室は、中央の間仕切りが自由に取りはずせるように工夫。</p>

				<p>⑤玄関が北に面するので明るくなるよう工夫した。</p> <p>⑥L・Dはワンルーム感覚で大勢集まれるように、また外部とのつながりも考えてみた。</p>
157	福島泰子	千葉県千葉市	主婦	<p>・延床面積 約125 m² (20 坪)</p> <p>・木造平家建て住宅</p> <p>●子供達の巣だった夫婦のために、お互いに自分の生き方を大切に、狭い面積を広々と使えるよう計画した。</p> <p>①民家風の内外装、大きな切り妻屋根、白い壁、黒い柱、板の間に座の生活。</p> <p>②広い土間：植物を育てて、夫の日曜大工の場。また気軽な社交場として。</p> <p>③光の調節は紙障子で引き込み戸で。</p> <p>④床暖房は風呂の仲まではしい。引き戸を多くして通路を広々と。夏は引き戸を開け放して涼やかに。</p> <p>⑤洗面所：大きな鏡面の扉。絶えず映って、体型の維持、ダンスの練習を。</p> <p>⑥ダイニングキッチンにしたのは、夫と一緒に調理できやすいように。</p>
594	小川富士子	千葉県野田市	主婦	<p>・木造2階建て住宅</p> <p>●家の、人の中心となる場所（居間）を吹き抜けに。屋根の構造材である梁、棟木を、天井という1枚の板で隠してしまうのはとても悲しい。木のもつ力強さ、自然の曲線を生かしたい。</p> <p>●木の家には畳がピッタリ。和室（B、C）には、家具を置かず広々と使いたい。</p> <p>●読書室（2F）：個室から出て、中心に本が沢山置ける。北側からのやさしい光に加えて、丸太の手摺りから来る南の吹抜けから来る光も加わり、とても楽しいものになるだろう。</p> <p>●家の間取り：いくら木が好きでも、人を生かせない間取りではダメ。私は玄関にトイレと2Fへの階段という現多いパターンは嫌い。なぜなら、玄関はオープンなもの、後者はプライベートなものだから。</p> <p>●家族構成が変わっても対応できるものを。</p> <p>— 個が守れ、和が保てる木の</p>

家 —				
581	中山友子	栃木県宇都宮市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て住宅 ・地方都市近郊の住宅地。 ・家族構成 夫婦(30代) + 子供(1~2) ●夫婦共に在宅で仕事をしている。家事は家族が協力しあってこなす。 ●友人、知人など来客も多く、そのための空間が活躍。
26	国分さち子	埼玉県川口市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て住宅 ●「屋根に煙突(換気孔)がついている家」 ①中央の大黒柱には配管、配線、換気孔などを埋め込み、また電話や飾り物をおける棚をくり抜く。 ②窓：丸や半月形の窓を使う。玄関では壁を丸くくり抜いて、竹でその中を細工し飾り透かしとする。雨戸もつける。 ③1F北側和室の入口は壁をドーム型に。
616	斎藤秀子	埼玉県新座市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 約208.89㎡ <li style="padding-left: 20px;">1F 127.05 <li style="padding-left: 20px;">2F 81.84 ・環境 西側道路に面した住宅地 ・家族構成 老夫婦+若夫婦+子供(2) ・瓦葺き屋根、銅板葺き ①各室とも床、内壁、及び風呂の流し場も木製にする。トイレ3ヶ所は銘木廃材を貼る(カラフルできれい)。 ②自然光を採り入れた書庫とミニギャラリー：細長いテーブルを置いて、図書室を兼ねた家族室としたい。 ③カーポートから勝手口が近い。雨の日及び荷物の多い時期に便利。 ④テラスから風呂に出入りできるから、泥などで汚れた時助かる。食堂とテラスが近いから、テラスで食事が容易に楽しめる。 ⑤風呂：湯船から星空が見える。
346	上村浩子	埼玉県東松山市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・木造2階建て住宅 ・敷地面積 約80坪(北西角地) ・延床面積 149.4㎡ ●家族の生活習慣に合わせて収納を考えた家 ①玄関、居間のドアは、明かり

				とり効果と電気器具、家具が大型になった今、親子ドアにするべき。 ②居間、廊下、台所はフローリング。老後のことを考えてできるだけ段差をつけない。また掃除もしやすい。
547	都丸君江	静岡県浜松市	主婦	・木造2階建て住宅(中2F)
558	二神道子	愛知県名古屋市	主婦	・敷地面積 315.00㎡ ・延床面積 251.44㎡ 1F 155.34 地階(車庫) 96.10 ・家族構成 夫婦+子供(3) ●美しく、住み易い
619	遠藤良枝	愛知県稲沢市	主婦	・延床面積 195.4㎡ 1F 133.3 2F 62.1
626	都筑里美	愛知県半田市	主婦	・延床面積 154.01㎡ 1F 99.37 2F 44.71 納戸 9.93 地下車庫 23.18 ●「家族全員の動きがわかる」「風通しがよく、冬暖かい日当たりがよい」「リビングにいつも皆が集まる」家 ①1Fは共用部分、2Fにプライベート部分。 ②子供の遊び場をリビングの一角に設けてキッチンからも目が届くように。 ③軒下のように透明屋根を付けて風通しをよくし、洗濯物も干せる(雨天)ようにする。 ④階段は緩やかな勾配で。また階段途中に引き戸を設ける(冷暖房効果を高めるため)。 ⑤洗面所にも暖房設備を設ける。 ⑥2F寝室に多目的スペースの畳を設ける。
39	北村康子	富山県富山市	主婦	・敷地面積 414.64㎡ ・延床面積 205㎡ 1F 144 2F 61 ・家族構成 夫婦(52,45歳)+子供(12,10歳) ●気候風土の点から、夏場は海をわたる爽やかな北風が吹き抜

				<p>けるためしのぎやすいが、冬場には西方向からの風雪や積雪があり、また年間を通じて湿度が高く、カビやダニが発生しやすい地方である。こうした気候風土対策を考え、街並に調和する数寄屋感覚あふれる家、また理想の暮らし方の実現を目指す住まい、そして長期的展望にたつての空間づくりを考えた。</p> <p>①全室南向きとし、南からの光と北からの風を最大限に取り入れ、東側の窓は隣家の窓を考慮し、西側はできるだけ塞いだ。</p> <p>②2mまでの積雪に耐えられるよう太い軸組材を使い、通し柱は4.5寸角(和室は檜)。また風雨や風雪から家を守るため軒を深くとり、軒まわりには電熱融雪を施す。雪を落とせるように屋根は南と北に勾配をつける。</p> <p>③地面から床までの高さを十分にとり(約1m)湿気や積雪に対処する。</p> <p>④どの部屋からも庭がのぞめる。</p> <p>⑤家事を効率よくこなせ、家族のゾーンから孤立しないこと、ボタンひとつで何でもこなせる高価なシステムキッチンではなく、家事そのものに生き甲斐を感じれるような空間づくりを。</p> <p>⑥二間続きの和室をリビングに隣接させ、境に防音効果のある引き戸(壁面に収納)を入れることにより和室を多用化させることができる。</p> <p>⑦玄関・ホールまわりの腰板に節のある焼板杉を張り、力強さと優しさ、本物の風格を醸し出させ座敷内玄関の木製格子との調和を図る。</p> <p>⑧子供の成長、雪対策を考慮にいれ、長期的展望にたつての空間づくり。</p>
79	島倉京子	富山県砺波市	主婦	<p>・延床面積 195.429 m² 1F 115.932 2F 79.497</p> <p>・家族構成 老夫婦+夫婦+子供(2)</p> <p>①南からの太陽をとり入れる②子供達に夢と冒険を楽しめるよう屋根裏を遊びの空間(天窓)に③食堂は主婦家族がいつも会話できるように対面キッチン④木のぬくもりを大切にし、縁側</p>

				も木でバルコニー型にする。また欧風デザインで明るくする。
70	早野 薫	三重県津市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2階建て木造住宅 ・ 家族構成 夫婦+子供(1)~(2) ・ 壁は全て土壁(夏涼しく、冬あったかいため) ①玄関：タイルとタイルの間から水分を吸い込むようにする。冷暖房を設置。 ②キッチン：キッチン台の上部には収納棚はつけない。 ③浴室：湯は温泉のように出てくる。長方形の浴槽を斜めにおいて温泉のようにタイル張りにする。床暖房になっているが、湯を流し始めると自然の温度になっていき、その操作を忘れるとブザーが大きくなる。 ④洗面、トイレ：脱衣所から洗面所まで床暖房。三面鏡付朝シャン兼用洗面台の設置。トイレは洋式で蓋をすると水が出、つまりの時はブザーで知らせる。 ⑤廊下：大黒柱(50cm四方位) ⑥和室：引き違い戸の上は障子の小窓。広縁と床の間は桜材を使用し、床下は車庫のため、防音床にする。 ⑦洋室：子供の部屋は防音に。 ⑧主寝室：夫婦が一番くつろげる部屋なので落ち着いた色彩にする。
187	富川映里子	滋賀県大津市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ● 3階建て木造住宅(京都の街並に調和した) ● 南北に細長い敷地に対応(間口3間半) ● 夫婦+子供(2)のゆったりした生活空間を ①中庭が見える落ち着いた和風玄関。 ②ガレージ：連戸でワンタッチ開閉。戸袋に3枚がすっきり収まる。 ③サービスヤード：キッチンの生ゴミがそのまま外のボックスへ流れるように。収納部の上はフラワーボックスになっている。 ④浴室：ルーフウィンドウ、変形出窓の設置。中庭が見下ろせる窓。 ⑤和室：料亭風の入口が贅沢な設え。 ⑥寝室横のミニキッチン：ちょっとしたお茶の用意を。

64	新坂敏子	兵庫県神戸市	主婦	<p>・敷地面積 223.587 m² ・延床面積 217.7841 m² ・3階建て木造住宅</p> <p>①敷地狭小化の現実に対応。 省敷地の意味で車庫、物置、食品庫、電気室等を住居部分に取り込み一ヶ所にまとめた。その部分の軒高は地表より230 cmと低く、この上に食堂、厨房を置き、その半階分上(=2F)に子供室、さらに半階分上の中3Fに夫婦室を考いた。まとめた部分が踏み台になったおかげで主な居室を全て南面させることが可能になった。</p> <p>②縁側の復権 縁側には単なる懐かしさだけでなく、根源的な渴望に似た気持ち働くように思われる。我が国の気候風土にとっていかに必然性の高い優れた居住空間か。エン(縁)ルームと仮称する部屋を取り入れた。応接部分と家族部分との通路の約を果たす一方、北側上部のガラス窓によって接する食堂とつながりをもたせ、家族相互のさりげない触れ合いの場(心理的、物理的な拡大)として期待している。そして、来客とは無関係にのんびりできる本当の意味の居間として定着させたい。</p> <p>③階段室のスペースは広く エンルームから中2Fへの階段は、踊り場が床上90cmの高さである、病弱、高齢者にも楽だろう。浴室も介助者が並んで入れるよう折り戸を取り入れて、幅を広くした。</p> <p>④エンルームは天井を張らず、軒裏でも面白いだろう、一部天窓をつけてもよいだろう。</p>
91	朝山初美	神奈川県横浜市	主婦	<p>・延床面積 193.6 m² 1F 101.2 2F 79.2 3F 13.2</p> <p>(テラス、ベランダ込み)</p> <p>①屋根はスレート。色はグレーの黒っぽい色。洗濯物が濡れないようにベランダの上まで覆うように。</p> <p>②ベランダの手すりは木材にしたいが、雨あがり水分を含むと布団が干せないで防水の木材はないものか。また削げのさかだたない木材がいいが値が高い</p>

				のでは？
582	大門一鶴子	兵庫県明石市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 164.8 m² <li style="padding-left: 20px;">1F 102.2 <li style="padding-left: 20px;">2F 39.6 アトリエ 23.0(小屋裏) ●海岸沿いに建つ中2F風の大きな家。真中に通り庭を配し上部を吹抜けにして2F部分をギャラリーに使う。どの部分からでもどの部屋にでも出入りができる。南側の居間、茶の間、ダイニングキッチン、テラスと通り庭には玄昌石を張り、建具も全部木製にして、潮風に強く、落ち着いた仕上げにする。海に見えるアトリエをもつ夫婦2人のゆったりした住まい。
612	明石千春	兵庫県神戸市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 40坪 ・延床面積 126.74m² <li style="padding-left: 20px;">1F 63.37 <li style="padding-left: 20px;">2F 63.37 ・家族構成 祖母(親世帯) + 夫婦 + 子供(2) (息子世帯) ●北歐ログハウスをイメージした。外壁は全周囲を板張りとしたところだが、間口が狭いので東西側の壁面は防火性能の良い白壁とし、南北側の壁面を板張りとする。内装も板張りを基調。また特に配慮したい点は、2世帯住宅の居住性を高めるために、2Fの床の防音装置は万全なものとする。 ①祖母が病気になるなど非常時に往来できるように、玄関は共用とする。倒れた時など鍵なしで入室できる。 ②敷地面積が小さいので風呂場、洗面所、納戸、客間を共用。 ③1F=親世帯、2F=息子世帯 ④2F部分は人数の割に南面の日当たりの良い場所が少ないので、各部屋の仕切りは開放できるものとし、日光を取り入れ易いようにする。ただし、子供が独立性を要望する場合は仕切りを閉じて使用するなど臨機応変に対応できるようにする。 ⑤敷地には洗濯物干し場と祖母のバラ園用として小さな庭を確保する。 ⑥制限のある中で暮らしやすさを第一義とする。

575	相賀壽美子	大阪府堺市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 85.50 坪 ・延床面積 48.125坪 <li style="padding-left: 20px;">1F 28.8125 <li style="padding-left: 20px;">2F 17.0 <li style="padding-left: 20px;">サンルーム 2.3125 ●茶室のある家
15	池田富士子	佐賀県取柄市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2階建て木造住宅 ①玄関から庭が見える。物入れの棚の上には明かり取りの障子。 ②浴室はガラス張りで露天風呂風に。 ③階段を利用した収納棚をつくる。また階段を居間に入れたのは、子供が帰ってきたら必ず姿が見れるように。 ④リビングルーム：日向ぼっこができるように床と縁との境に段差をつけてイスのようにする。 ⑤洋室2間は将来戸をはずして続き間として広々と。
579	田中律子	熊本県宇土市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 373 m² ・延床面積 156 m² <li style="padding-left: 20px;">1F 111 <li style="padding-left: 20px;">2F 45 ・家族構成 夫婦+子供(1) ①車庫は家の中に設置。リモコンで車の中からシャッターを開ける。車庫から玄関ホールへ直接入れる。 ②夫婦寝室は1Fにあった方が便利。 ③特別に納戸は設けず、各部屋に必要なものはその部屋に収納できるようにする。 ④台所はオール電化とする。将来に備えて200ボルトの配線をしておく。台所南面はサンルームとし観葉植物をおく。床暖房とする。 ⑤食堂兼ファミリールームは2Fまでの吹抜けとし、2Fのルーバー窓から日照通風を取り入れる。1Fで操作できるように。 ⑥和室6帖を居間とする。板の間を設けて部屋を広くする。普段はファミリールームと一体して使えるように引き込み戸にしてある。 ⑦2Fは子供室と和室4.5帖の予備室を設ける。予備室と廊下から吹抜けを見降ろせる。
621	恒吉淳子	福岡県福岡市	主婦	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積 135.3 m² <li style="padding-left: 20px;">1F 72.6 <li style="padding-left: 20px;">2F 62.7

				<p>・家族構成 夫婦＋子供(3)</p> <p>●木は住居の快適さを自然に保っている。どんな立派な住建築物も劣悪な環境のもとにあっては良い住居になり得ないと思うが、木材の需要と供給のバランスがとれるレベルで森林作りが行われるとしたら、それは大局的住環境作りに一役をなすと考えられる。この提案は、鉄筋コンクリート造に比べて構造上強度が劣るとみなされる木造でも、住むのに充分強い構造であるようになるべく凹凸のない総2階建ての形にした。</p> <p>①1Fに食堂、居間、和室二間とL字形に連続するパブリックスペースと台所、洗濯場、洗面浴室、トイレと水まわりをまとめた部分を配置した。襖をはずすとL字形にかなりの広さが得られ、多人数での宴会ができる。宴というのは文化であると考えられる。壁とドアで部屋を区切ってしまうと大勢集まって飲んだり食べたり、踊ったりは無理である。引き戸は大きな空間を得られるという点、風の通り道を割と自由に造れるという点においてドアに優ると思う。</p> <p>②2Fは個室と収納の空間を配置した。個室は基本的にはプライバシーが守られる事、外部からの防音に優れている事、個室として通路に面した入口を閉ざしてもなお通風が得られる事の3点が要求される。押し入れも防音機能として効果が出るよう配し、各部屋がそれぞれ2面屋外への開口部をもって通風が得られるようにした。また、収納を納戸にせず押し入れにしたのは、納戸は物を出し入れする際に人が動くスペースを常時確保しなくてはならないから、実際にはその空間がムダになるから。</p> <p>③屋根裏はどのくらいの空間が得られるのか素人には分からないが、切り妻屋根にし、なるべく大きな空間をとりたい。その空間は、趣味の空間（例えば鉄道模型レールを敷いて列車を走らせる）あるいは、大型の物品の収納所、雨天物干し場として活用したい。そして、家全体の空調の役とさせたい。2F廊下の上辺りに上向きと下向きの大</p>
--	--	--	--	--

				<p>型ファンを設け、夏は天窓を開け屋根裏の熱気を屋外に追い出し、冬は屋根裏のぬくもりを階下へ送りこみたい。</p>
--	--	--	--	--